

舞鶴市農家アンケート 集計結果報告書

平成26年12月
舞鶴市産業振興部農林課

目 次

第1章 アンケート調査の実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3

1 目的

2 調査の内容

3 調査対象等

4 有効回答数

5 集計方法について

第2章 アンケート調査結果の要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～7

第3章 アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～49

※アンケート調査票

第1章 アンケート調査の実施概要

1 目的

今後の本市の農業振興のあり方を示す「舞鶴農業振興地域整備計画」の見直しにあたり、農家の意向等を計画に反映していくため、今後の経営見通し等についてアンケート調査を実施した。

2 調査の内容

- 耕作面積について
- 経営種別について
- 将来の経営規模、経営見通しについて
- 自身の後継者について（※年齢が60歳以上の農業者が調査対象）
- 栽培作物とその出荷・販売先について

3 調査対象等

項目	内容
調査対象	市内集落の農事組合加入者 【115集落（東地域46、西地域32、加佐地域37）】 ※「対象集落一覧（P3）」のとおり
調査方法	農事組合長説明会で、各農事組合長にアンケート調査票を配布。農事組合長が各農家に配布、取りまとめのうえ、市農林課に提出。
調査期間	平成26年5月27日～6月30日

4 有効回答数

配布戸数	回収戸数	回答率
4,200	2,252	53.6%

5 集計方法について

- すべての項目について、「無回答」を除いた集計としている。そのため、合計は項目ごとに異なり、回収数と一致しない。
- 各集計の構成比は、小数点第2位で四捨五入し、端数の調整をしていないため、合計数値が100%にならない場合がある。

対象集落一覧

地域名	地区名	集落名	地域名	地区名	集落名	地域名	地区名	集落名
東地域	中舞鶴	和田	西地域	四所 (7)	上福井	加佐地域	岡田上 (10)	上村
	新舞鶴	市場			下福井			宇谷
	倉梯 (2)	森			喜多			小原
		行永			大君			桑飼下
	祖母谷 (2)	堂奥			吉田			地頭
		多門院			青井			小俣
	与保呂 (3)	常			白杉			大俣上
		木ノ下		女布	大俣中			
		与保呂		高野由里	大俣下			
	志楽 (7)	泉源寺		野村寺	滝ノ宇呂			
		田中		城屋	岡田由里			
		安岡		真倉	富室			
		小倉		十倉	西方寺			
		鹿原		京田	河原			
		吉坂		引土	下見谷			
		松尾		万願寺	下漆原			
	朝来 (8)	大波下		今田	上漆原			
		大波上		堀	長谷			
		朝来中		池ノ内下	久田美			
		吉野		布敷	真壁			
		白屋		別所	志高			
		登尾		上根	大川			
		杉山		寺田	和江			
		笹部		白滝	丸田東			
	東大浦 (11)	河辺中		岸谷	丸田西			
		西屋		福来	八田			
		室牛		天台	八戸地			
		河辺由里		清道	三日市			
		観音寺		上安	上東			
		河辺原		上安久	下東			
		栃尾		下安久	中山			
		大山		匂ヶ崎	水間			
		田井		西地域計(②)	32集落		水間下	
		成生		東地域計(①)	46集落		東神崎	
	野原	神崎 (4)					西神崎	
	小橋						油江	
	三浜						蒲江	
	多祢寺						加佐地域計(③)	37集落
	赤野	合計(①+②+③)					115集落	
	中田							
	平							
	上佐波賀							
	下佐波賀							
	千歳							
	大丹生							
	瀬崎							

第2章 アンケート調査結果の要旨

アンケート調査の結果、特徴のある項目は次のとおり。

【回答者全体】

■耕作面積が29a以下との回答が全体の62.1%を占め、また、第1種兼業農家（農業所得を主とする兼業農家）や専業農家の割合は全体の9.8%であることから、本市の農家は、小規模農家が多く、農業所得を主として生計を立てている農家は少数である。

■今後の経営見通しとして47.8%が農業経営を「縮小したい（18.1%）」「やめたい（29.7%）」と回答しており、その理由として、「高齢化などで体力が続かないから（34.0%）」「後継者がいないから（23.2%）」「有害鳥獣の被害が続いているから（16.3%）」が主となっている。

また、農業経営を「縮小したい」「やめたい」と回答した農家を対象に、耕作しなくなる農地について尋ねたところ、31.4%が「耕作してもらえぬ担い手農家や集落の営農組織があれば耕作してほしい」と回答している一方で、50.6%が「遊休化して荒らしても仕方がない（20.3%）」「まだどうするか考えていない（30.3%）」という回答であった。

■60歳以上の農家を対象に後継者について尋ねたところ、56.5%が後継者の見込みが立っておらず、そのうち「積極的に後継者を探すことまではするつもりはないが、見つければいいと思う（37.9%）」「後継者を探すつもりはない（47.9%）」と回答した割合は、合わせて85.8%を占める。

■今後栽培したい作物として、全体の40.8%が「栽培技術が易しく、病害虫に強い、作りやすい作物」を栽培したいと答えており、次いで26.3%が「有機栽培や低農薬栽培など、より安全で安心して消費してもらえぬ作物」を栽培したいと答えている。

■農作物の出荷・販売先については、現在、「自家消費のみ（42.8%）」と「近所等に配る（29.0%）」で71.8%を占める。また、今後は、「自家消費のみ」「近所等に配る」「農協へ出荷」の割合が減少する一方、「卸売市場へ出荷」「直売所等で販売」「取引先と契約出荷」「食品加工場へ納入」の割合は増加する。

【地域別】

<p>●全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域とも、生産量の多い農作物の順は、一般米、じゃがいも、玉ねぎ、大根である。 ・自給的農家は、東地域で49.2%、西地域で53.7%を占め、加佐地域(40.6%)を上まわっている。 ・農業経営を「縮小したい」「やめたい」と思う理由を地域別に比較すると、東地域では「有害鳥獣の被害が続いているから(19.6%)」、西地域では「農地の区画や農道が狭く、農作業が非効率だから(8.1%)」、加佐地域では「高齢化などで体力が続かないから(39.5%)」が他地域の同一項目と比較してやや多い結果となっている。 ・東・加佐地域では、後継者として集落内の営農組織を位置付けている割合が西地域(1.7%)と比較して多い(東地区:11.4%、加佐地区:12.5%)。 ・東・西地域では、耕作しなくなる農地について、50%以上が「遊休化して荒らしても仕方がない」「まだどうするか考えていない」という状況である。
<p>●東地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「後継者として決まった人または団体がある」と回答した割合が33.9%と他地域よりも多いことから、担い手の確保が進んでいる。
<p>●西地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・29a以下の農地を耕作されている農家の割合が74.4%と他地域よりも多い。
<p>●加佐地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・30a以上の農地を耕作している農家の割合が51.6%と他地域よりも多い。 ・「耕作してもらえる担い手農家や集落の営農組織があれば、耕作してほしい」と思っている方が、43.8%と他地域より多く、積極的に担い手を受け入れる環境にある。 ・60歳代以上の方で、「現在、集落の外へ出ている家族が、将来ともこの集落に戻って来る見込みが無い(または極めて低い)」という状況の方が36.1%と他地域よりも多く、また、農業後継者を「ぜひ探したい(1.3%)」と「できれば探したい(18.3%)」と思っている方は、19.6%と他地域よりも多い。 ・農作物の出荷・販売先について、他地域と比較して、「自家消費のみ」「近所等に配る」の割合が少なく、「農協へ出荷」の割合が多い。

【経営種別】

<p>● 共通</p>	<p>自給的農家と第2種兼業農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40～50%が、農業経営を「縮小したい」「やめたい」と思っており、その約半数が、耕作しなくなる農地について、「遊休化して荒らしても仕方がない」「まだどうするか考えてない」という状況である。 ・ 60歳代以上の80%以上が後継者を探すつもりはないと思っている。 ・ 40%以上が、今後作りやすい作物を栽培したいと思っている。 ・ 農作物の出荷・販売先について、現在、将来とも「自家消費のみ」が一番多くを占める。 <p>第1種兼業農家と専業農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 50%以上が農業経営を「縮小したい」「やめたい」と思っており、その約40%が耕作しなくなる農地について、「耕作してもらえる担い手農家や集落び営農組織があれば耕作してほしい」と思っている。 ・ 約30%が今後、高付加価値作物を栽培したいと思っている。 ・ 農作物の出荷・販売先について、現在、将来とも「農協へ出荷」が一番多くを占める。
<p>● 自給的農家 ※農地が30a未満で農作物の年間販売金額が50万円未満の農家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営を「縮小したい（14.2%）」「やめたい（31.5%）」と思う理由として、「後継者がいないから（25.9%）」を挙げる割合が他種別より多い。
<p>● 第1種兼業農家 ※農業所得を主とする兼業農家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営を「縮小したい（39.4%）」「やめたい（15.2%）」と思う理由として、「農業収入が少ないから（15.0%）」を挙げる割合が他種別より多い。 ・ 「後継者として決まった人または団体がある（41.5%）」「今は集落の外へ出ている家族が、将来はこの集落に戻って農業を継ぐ可能性がある（24.5%）」と回答した割合が66.0%と他種別よりも多く、担い手の確保が進んでいる。
<p>● 第2種兼業農家 ※農業所得以外の所得を主とする兼業農家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営を「縮小したい（20.7%）」「やめたい（25.4%）」と思う理由として、「農機具が老朽化しているから（11.0%）」を挙げる割合が他種別よりも多い。
<p>● 専業農家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作面積が100a以上と回答した割合が23.9%と他種別より多い。 ・ 農業経営を「拡大したい」と回答した割合が9.8%と他種別より多い一方、52.3%が農業経営を「縮小したい（23.5%）」「やめたい（28.8%）」と思っている。その理由として、「高齢化などで体力が続かないから（40.0%）」を挙げる割合が他種別よりも多い。

《参考集計》【年齢別】

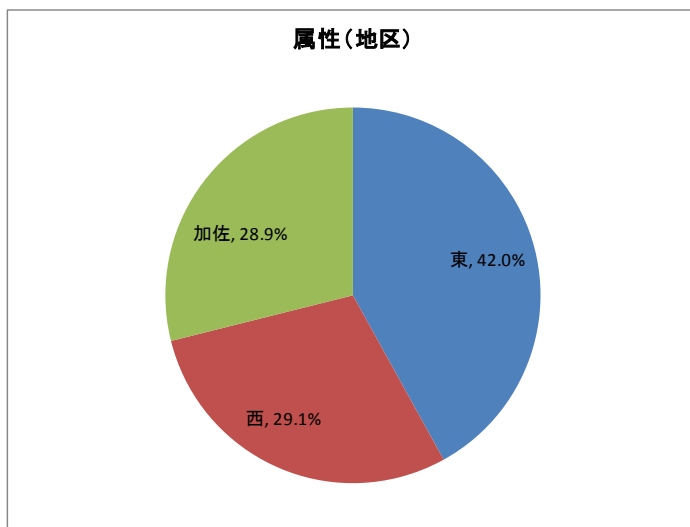
● 30歳代	<ul style="list-style-type: none">・約半数が30a以上耕作していて、100a以上耕作している農家の割合や専業農家の割合、今後農業経営を「拡大したい」と考えている割合は他の年代より多く、意欲的に農業を行い本市農業の中核を担っている年代といえる。・一方で、今後農業経営を「縮小したい」「やめたい」と考える理由として、「農業収入が少ないから（54.5%）」を挙げている割合が他の年代より多い点も特徴といえる。・農作物の出荷・販売先について、「自家消費のみ」の回答が、他の年代と比較すると極端に少なく、「卸売市場へ出荷」「直売所等で販売」の回答は多い。
● 70歳代以上	<ul style="list-style-type: none">・農業経営を「縮小したい」「やめたい」と思っている割合が50%を超える。
● その他	<ul style="list-style-type: none">・高齢層になるにつれて、後継者不足を理由に農業経営を「縮小したい」「やめたい」と考えている割合が多く、「耕作してもらえる担い手農家や集落の営農組織があれば、耕作してほしい」と考えている割合も多い。

第3章 アンケート調査結果

～回答者の属性～

【在住地域】

地域名	地区名	回答者数
東	中舞鶴	3
	祖母谷	95
	倉梯	92
	与保呂	120
	志楽	170
	朝来	129
	東大浦	136
	西大浦	200
西	旧町	21
	四所	153
	高野	156
	中筋	78
	池内	186
	余内	62
加佐	岡田上	113
	岡田中	130
	岡田下	159
	八雲	194
	神崎	55
合計		2,252

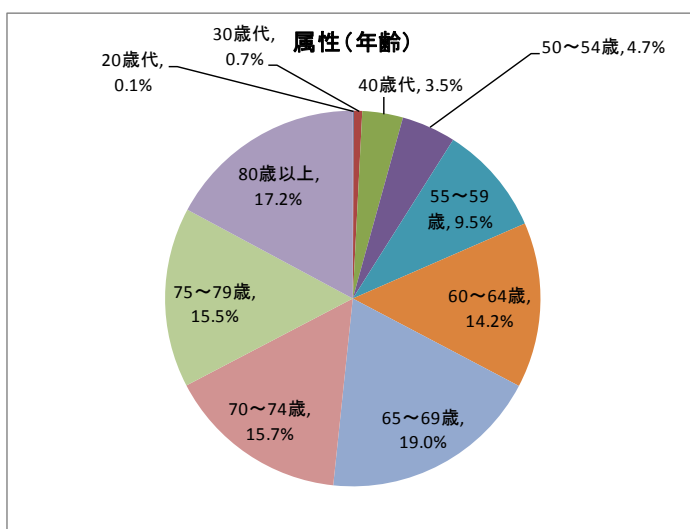


《参考集計》

【年齢】

※回答にあたっては、回答者が所属する世帯を代表して、農家世帯の意向を回答するようにお願いしている。このため、年齢別での集計結果は正式な集計結果として取り扱いせず《参考集計》としている。

年齢	回答者数
20歳代	2
30歳代	16
40歳代	78
50～54歳	104
55～59歳	211
60～64歳	317
65～69歳	422
70～74歳	349
75～79歳	345
80歳以上	382
合計	2,226



問1 現在、あなたの農家が耕作されている面積についてお聞きします。

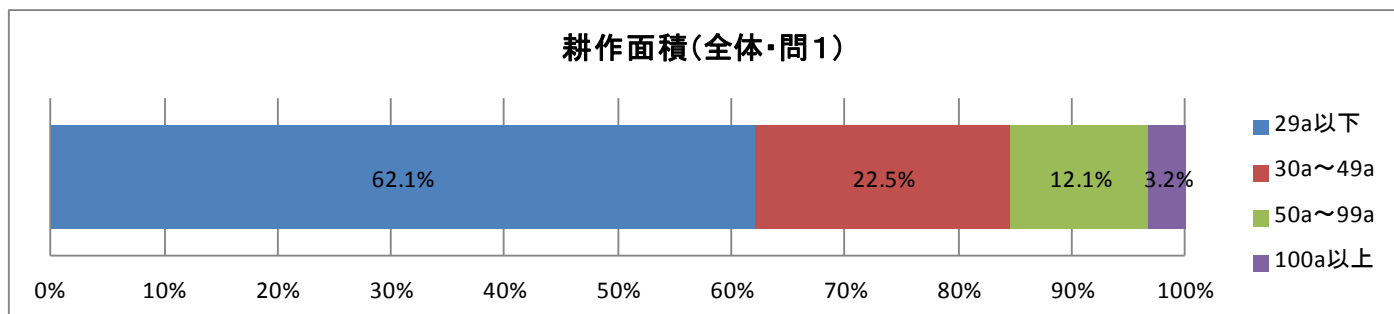
1 29a以下

2 30a～49a

3 50a～99a

4 100a以上 (10a=1反)

【集計結果】

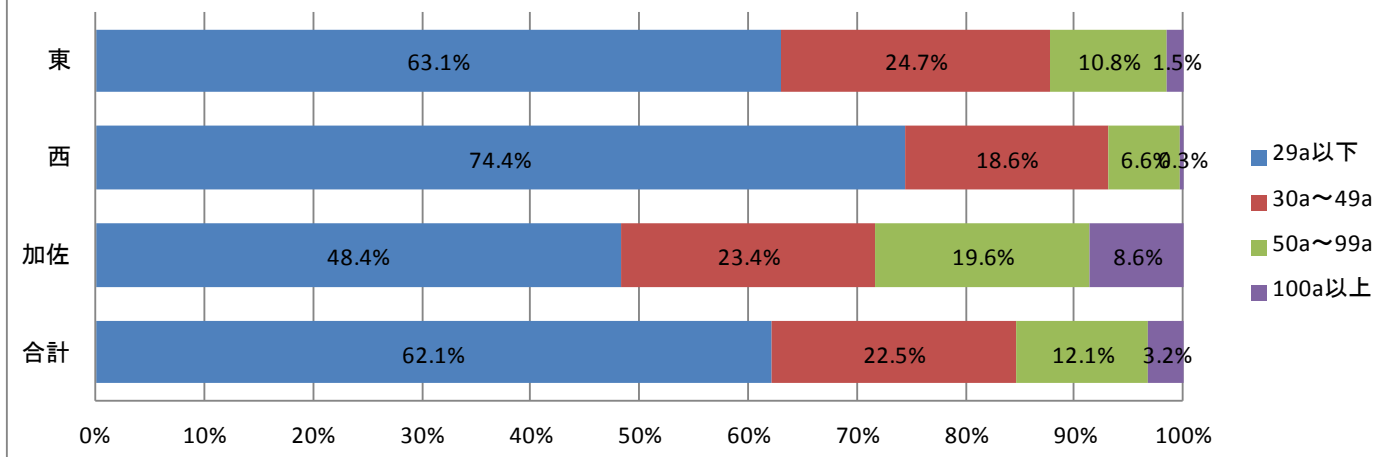


29a以下	30a～49a	50a～99a	100a以上	合計
1,323	480	258	68	2,129

【主な特徴】

- 耕作面積が29a以下の農家は、回答者全体の62.1%を占める。

在住地域ごとの耕作面積(“お住まいの集落”×問1)

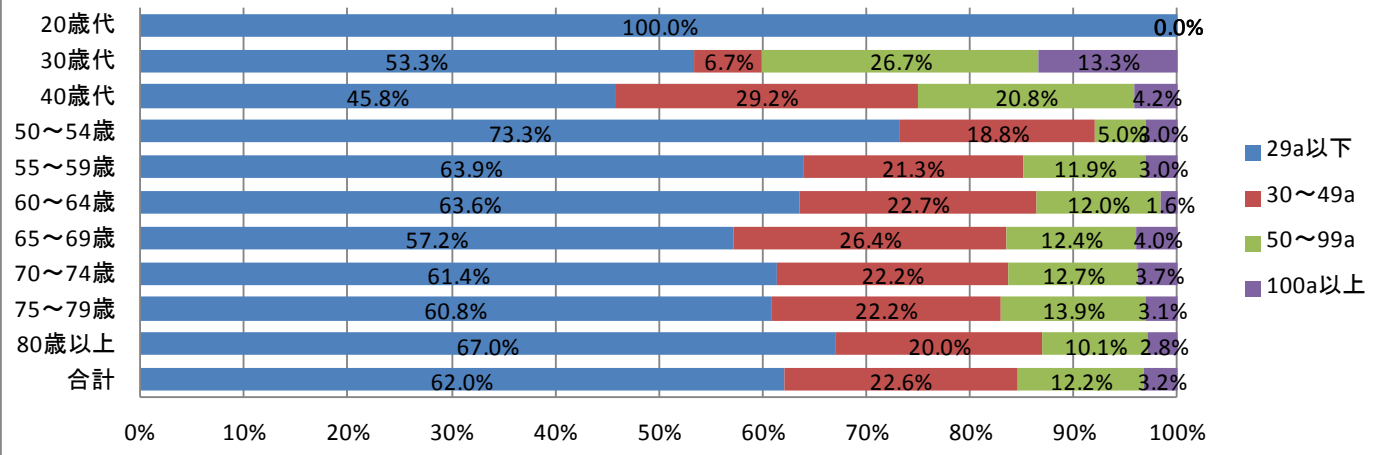


地域	地区	29a以下	30~49a	50~99a	100a以上	合計
東	中舞鶴	3	0	0	0	3
	祖母谷	47	27	17	0	91
	倉梯	60	12	0	0	72
	与保呂	80	29	8	0	117
	志楽	104	44	11	3	162
	朝来	101	16	6	0	123
	東大浦	62	34	28	6	130
	西大浦	105	58	26	4	193
西	旧町	15	3	0	0	18
	四所	118	23	3	0	144
	高野	104	34	12	0	150
	中筋	59	15	1	0	75
	池内	115	34	25	1	175
	余内	52	7	0	1	60
加佐	岡田上	54	27	20	9	110
	岡田中	58	24	28	12	122
	岡田下	83	30	24	12	149
	八雲	80	46	40	18	184
	神崎	23	17	9	2	51
合計	1,323	480	258	68	2,129	

【主な特徴】

- 西地域は、「29a以下」と回答した割合が74.4%と他地域よりも多い。
- 加佐地域は、東・西地域よりも30a以上の農地を耕作している農業者の割合が51.6%と多い。

《参考集計》 年齢ごとの耕作面積(“年齢”×問1)



年齢	29a以下	30~49a	50~99a	100a以上	合計
20歳代	2	0	0	0	2
30歳代	8	1	4	2	15
40歳代	33	21	15	3	72
50~54歳	74	19	5	3	101
55~59歳	129	43	24	6	202
60~64歳	196	70	37	5	308
65~69歳	230	106	50	16	402
70~74歳	199	72	41	12	324
75~79歳	197	72	45	10	324
80歳以上	238	71	36	10	355
合計	1,306	475	257	67	2,105

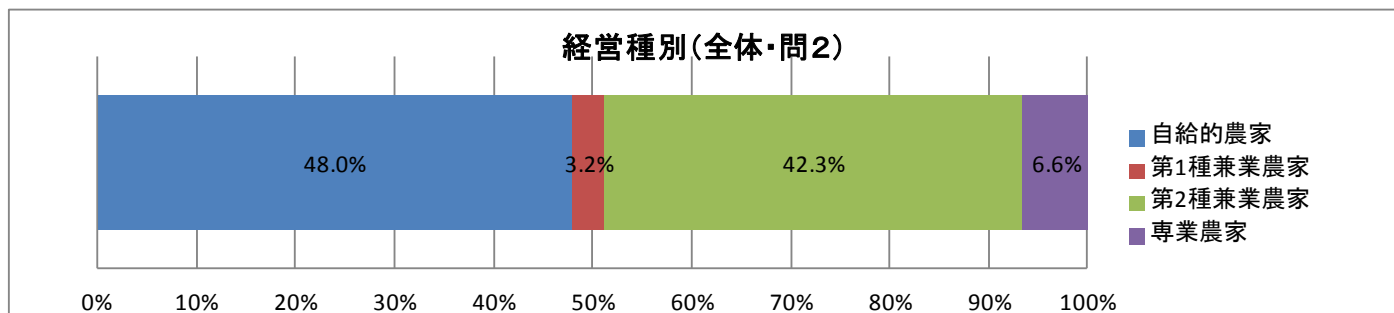
【主な特徴】

- 100a 以上耕作している農業者は、30 歳代で 13.3%と他の年代よりも多い。
- 30 歳代、40 歳代の約半数が 30a 以上耕作している。

問2 あなたの農家は、次のどれに当てはまりますか。

- 1 自給的農家（農地が30a未満で農作物の年間販売金額が50万円未満）
- 2 第1種兼業農家（農業所得を主とする兼業農家）
- 3 第2種兼業農家（農業所得以外の所得を主とする兼業農家）
- 4 専業農家

【集計結果】

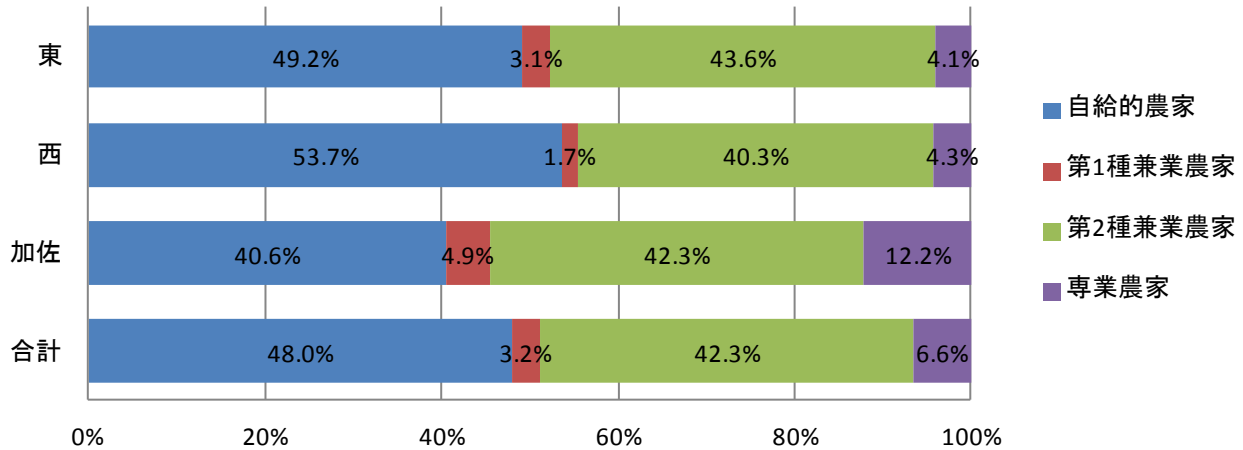


自給的農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	合計
1,002	67	883	137	2,089

【主な特徴】

- 回答者の90.3%は、「自給農家(48.0%)」あるいは「第2種兼業農家(42.3%)」である。

在住地域ごとの経営種別(“お住まいの集落”×問2)

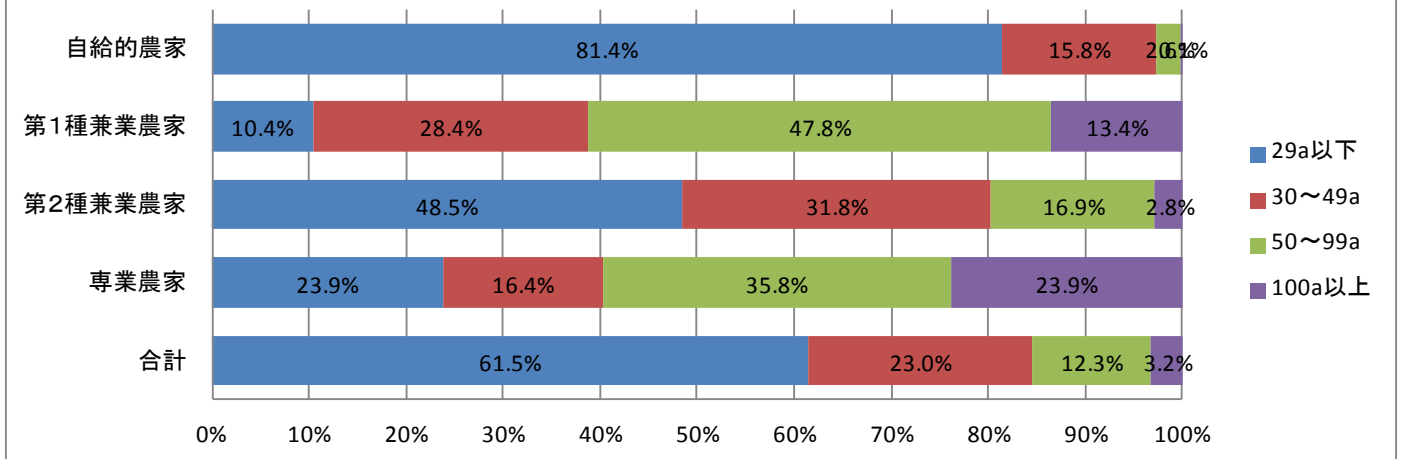


地域	地区	自給的農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	合計
東	中舞鶴	1	0	2	0	3
	祖母谷	41	3	40	3	87
	倉梯	38	0	30	0	68
	与保呂	56	2	53	4	115
	志楽	75	6	74	4	159
	朝来	74	1	41	3	119
	東大浦	49	5	61	9	124
	西大浦	95	10	79	13	197
西	旧町	12	1	4	0	17
	四所	91	1	43	5	140
	高野	62	4	72	8	146
	中筋	41	0	29	6	76
	池内	87	4	73	4	168
	余内	31	0	22	3	56
加佐	岡田上	52	8	37	13	110
	岡田中	51	9	41	22	123
	岡田下	67	6	61	18	152
	八雲	61	5	99	15	180
	神崎	18	2	22	7	49
合計	1,002	67	883	137	2,089	

【主な特徴】

- 東地域・西地域においては、それぞれ 49.2%、53.7%が「自給的農家」である。
- 専業農家の割合は、加佐地域で 12.2%と他地域よりも多い。

経営種別ごとの耕作面積(問1×問2)

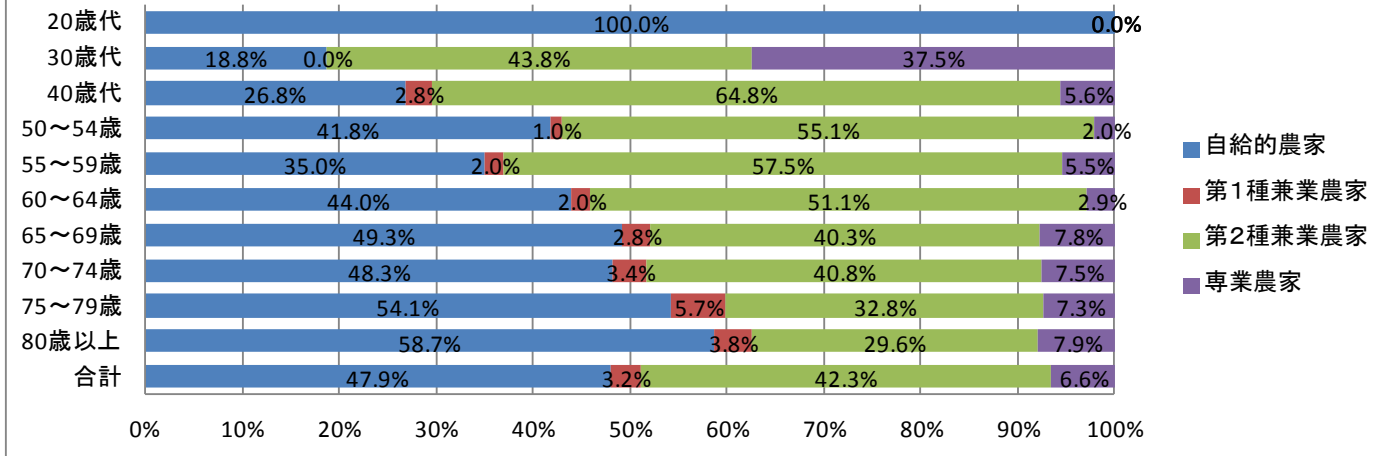


	29a以下	30~49a	50~99a	100a以上	合計
自給的農家	807	157	26	1	991
第1種兼業農家	7	19	32	9	67
第2種兼業農家	421	276	147	24	868
専業農家	32	22	48	32	134
合計	1,267	474	253	66	2,060

【主な特徴】

- 自給的農家と第2種兼業農家は「29a以下」、第1種兼業農家と専業農家は「50~99a」が最も多くなっている。

《参考集計》 年齢ごとの経営種別(“年齢”×問2)



年齢	自給的農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	合計
20歳代	1	0	0	0	1
30歳代	3	0	7	6	16
40歳代	19	2	46	4	71
50～54歳	41	1	54	2	98
55～59歳	70	4	115	11	200
60～64歳	135	6	157	9	307
65～69歳	197	11	161	31	400
70～74歳	154	11	130	24	319
75～79歳	170	18	103	23	314
80歳以上	200	13	101	27	341
合計	990	66	874	137	2,067

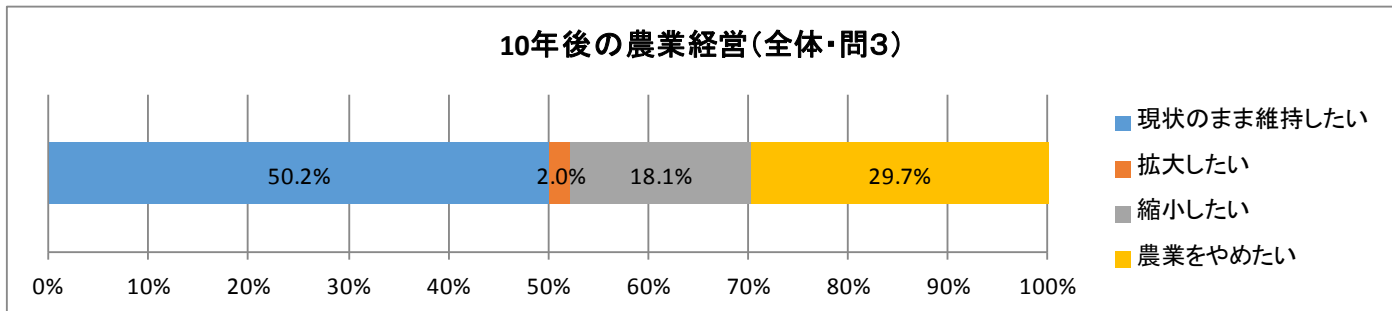
【主な特徴】

- 高齢層になるにつれて、「自給的農家」の割合が多い。
- 専業農家の割合は、30歳代で37.5%と他の年代よりも多い。

**問3 あなたの農家のおよそ10年後の農業経営についてお聞きします。
 拡大・縮小予定がある場合は、そのおよその面積を記入してください。**

- 1 現状のまま維持したい
- 2 拡大したい 増やす面積 a
- 3 縮小したい 減らす面積 a
- 4 農業をやめたい

【集計結果】

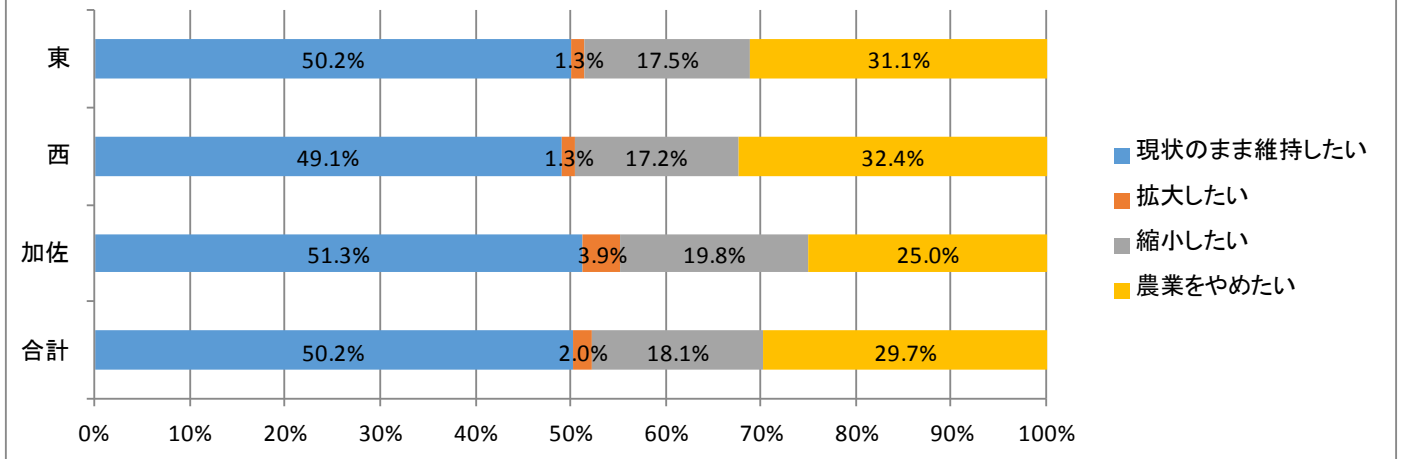


現状のまま維持したい	拡大したい	縮小したい	農業をやめたい	合計
1,054	43	380	623	2,100
	増やす面積 14.9ha	減らす面積 36.2ha		

【主な特徴】

- 回答者の50.2%が、「現状のまま維持したい」と回答している。
- 「農業経営を拡大したい」という回答は、全体の2%である。
- 回答者の47.8%が、「農業経営を縮小したい(18.1%)」あるいは「農業をやめたい(29.7%)」と回答している。
- 「農業経営を拡大したい」と回答した方の拡大面積の合計が14.9haであるのに対し、「農業経営を縮小したい」と回答した方の縮小面積の合計は36.2haである。

在住地域ごとの10年後の農業経営(“お住まいの集落”×問3)

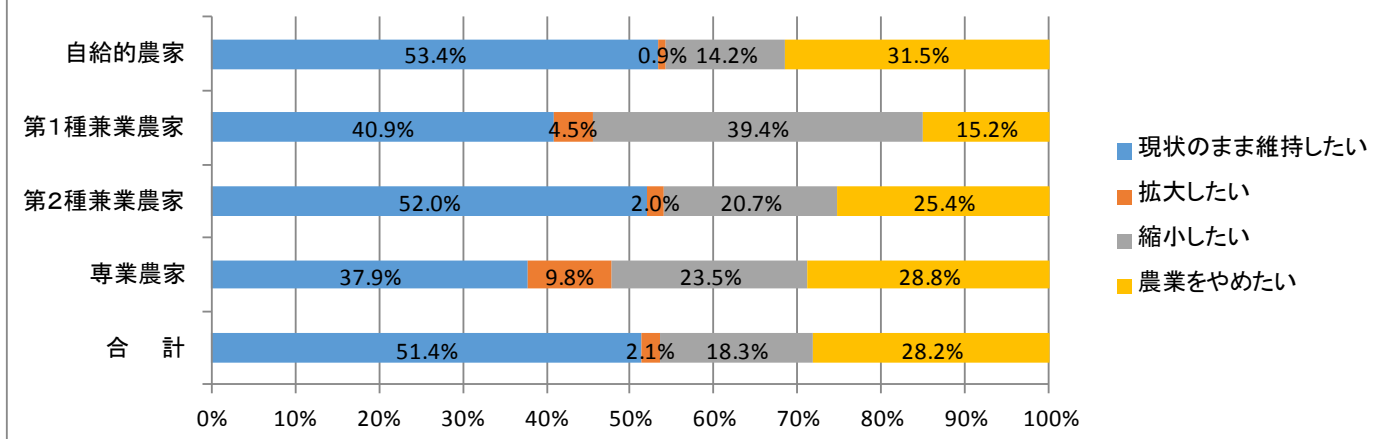


地域名	地区名	現状のまま維持したい	拡大したい	縮小したい	農業をやめたい	合計
東	中舞鶴	1	0	0	2	3
	祖母谷	45	0	21	22	88
	倉梯	38	0	4	30	72
	与保呂	67	2	14	30	113
	志楽	75	2	24	57	158
	朝来	52	1	25	42	120
	東大浦	60	0	24	46	130
	西大浦	103	6	42	44	195
西	旧町	8	0	2	8	18
	四所	61	0	26	48	135
	高野	80	0	27	42	149
	中筋	44	3	11	16	74
	池内	85	3	27	58	173
	余内	19	2	11	24	56
加佐	岡田上	57	4	20	27	108
	岡田中	65	10	22	23	120
	岡田下	80	3	26	45	154
	八雲	91	7	38	46	182
	神崎	23	0	16	13	52
合計	1,054	43	380	623	2,100	

【主な特徴】

- 今後の経営見通しを地域別で比較すると、「拡大したい」と回答した割合は、加佐地域で3.9%と他地域よりも多い。
- 地区別で見ると、「拡大したい」と回答した割合は、岡田中地区で約8.3%と他地区よりも多い。
- 一方、「農業をやめたい」と回答した割合は多い順に、東地域の中舞鶴地区が約66.7%、西地域の旧町地区が約44.4%、余内地区が約42.9%である。

経営種別ごとの10年後の農業経営(問2×問3)

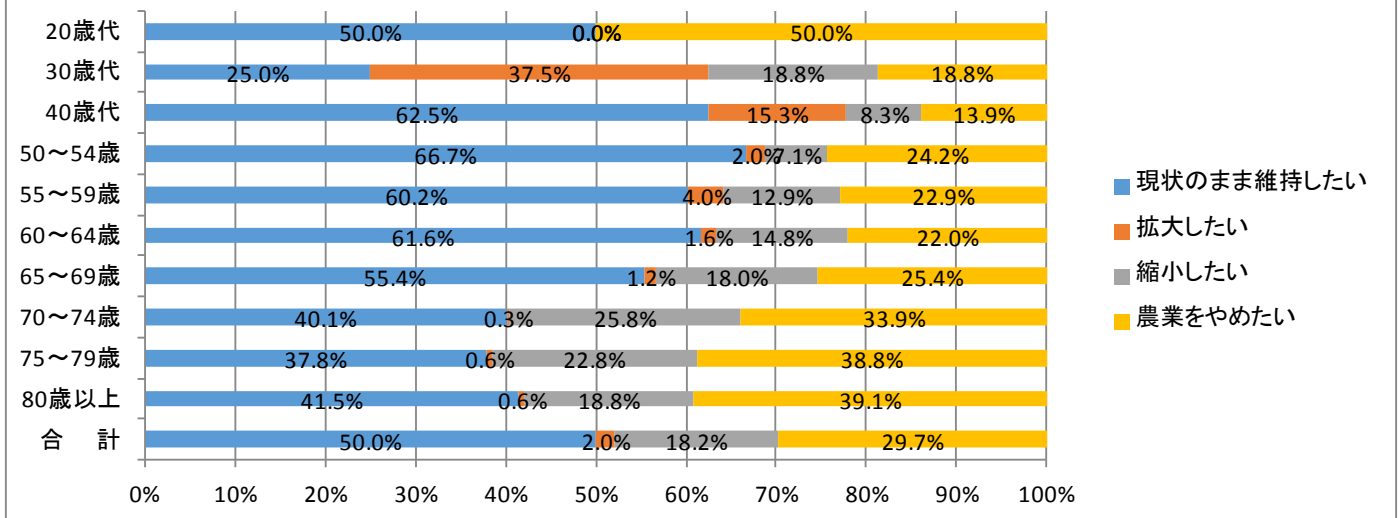


経営種別	現状のまま維持したい	拡大したい	縮小したい		農業をやめたい	合計
			面積(a)	面積(a)		
自給的農家	513	9	144.8	136	303	961
第1種兼業農家	27	3	526.0	26	10	66
第2種兼業農家	443	17	320.0	176	216	852
専業農家	50	13	500.0	31	38	132
合計	1,033	42	1,490.8	369	567	2,011

【主な特徴】

- 経営種別で見ると、「農業経営を拡大したい」と回答した割合は、専業農家で9.8%と他種別よりも多い。
- 第1種兼業農家と専業農家の50%以上が、「農業経営を縮小したい」あるいは「農業をやめたい」と回答している。特に、第1種兼業農家の縮小意向は39.4%と最も多く、他種別の縮小意向と大きな差がある。

《参考集計》 年齢ごとの10年後の農業経営(“年齢”×問3)



年齢	現状のまま維持したい	拡大したい	縮小したい		農業をやめたい	合計
			面積(a)	面積(a)		
20歳代	1	0	0.0	0	1	2
30歳代	4	6	130.0	3	3	16
40歳代	45	11	790.0	6	10	72
50～54歳	66	2	50.0	7	24	99
55～59歳	121	8	230.0	26	46	201
60～64歳	188	5	50.8	45	67	305
65～69歳	225	5	190.0	73	103	406
70～74歳	129	1	0.0	83	109	322
75～79歳	118	2	20.0	71	121	312
80歳以上	141	2	30.0	64	133	340
合計	1,038	42	1,490.8	378	617	2,075

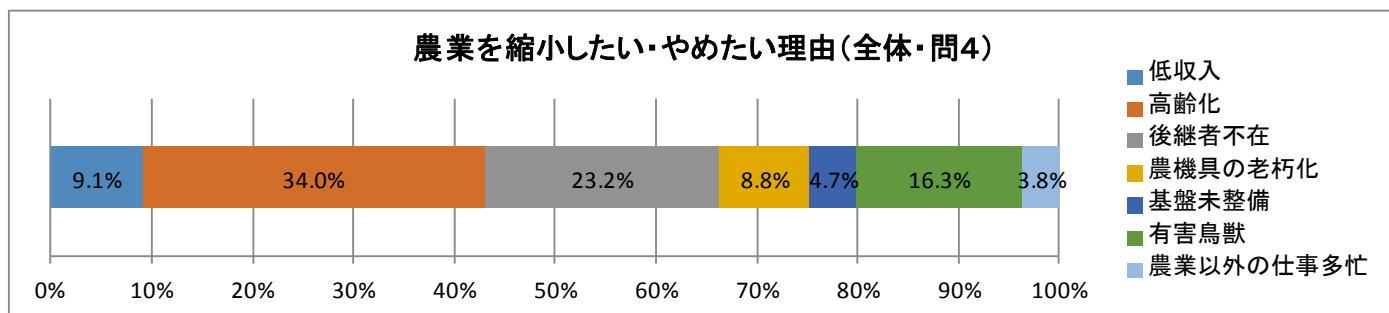
【主な特徴】

- ▶ 年代別で見ると、30～40代では「農業経営を拡大したい」と答えた方の割合が他の年代よりも多い(30歳代：37.5%、40歳代：15.3%)。
- ▶ 70歳以上では「農業経営を縮小したい」「農業をやめたい」と答えた方の割合が50%を超える。

問4 問3で「3 縮小したい」または「4 農業をやめたい」を選ばれた方は、その理由をお書きください。(複数回答可)

- 1 農業収入が少ないから
- 2 高齢化などで体力が続かないから
- 3 後継者がいないから
- 4 農機具が老朽化しているから
- 5 農地の区画や農道が狭く、農作業が非効率だから
- 6 有害鳥獣の被害が続いているから
- 7 農業以外の仕事が忙しいから
- 8 その他(具体的に⇒)

【集計結果】「3 縮小したい」(380人)と「4 やめたい」(623人)の計1,003人の回答



低収入	高齢化	後継者不在	農機具の老朽化	基盤未整備	有害鳥獣	農業以外の仕事多忙	合計
198	738	505	192	103	355	82	2,173

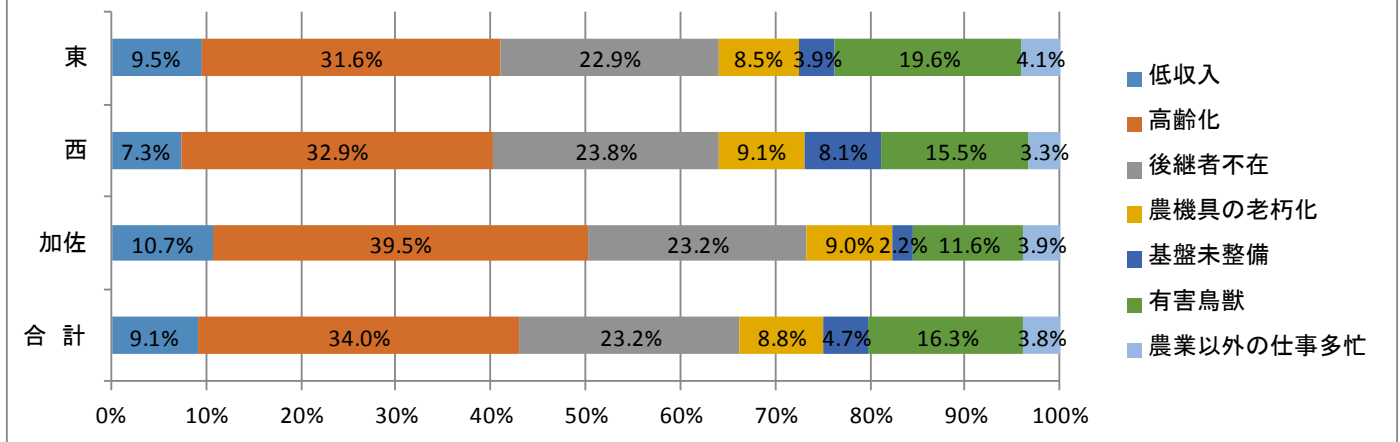
【主な特徴】

- 「農業経営を縮小したい」または「農業をやめたい」理由として、「高齢化(34.0%)」「後継者不足(23.2%)」、「有害鳥獣被害(16.3%)」で73.5%を占める。

● 「8 その他」の具体的な意見

- 水害が頻繁に起こるから
- 米価が安く、米を作る意欲が湧かないから
- 草刈り等農地の維持が大変だから
- 農地が遠方にあるから
- 農業用水の確保が困難であるから

在住地域ごとの農業を縮小したい・やめたい理由(“お住まいの集落”×問4)

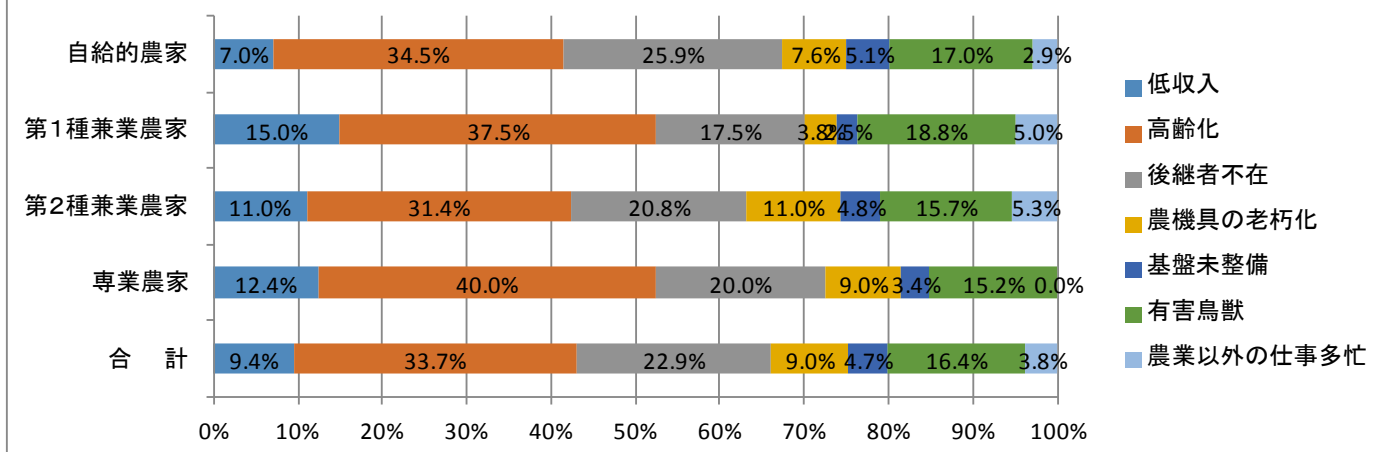


地域名	地区名	低収入	高齢化	後継者不在	農機具の老朽化	基盤未整備	有害鳥獣	農業以外の仕事多忙	合計
東	中舞鶴	0	2	1	0	0	0	0	3
	祖母谷	11	33	20	15	8	26	6	119
	倉梯	6	21	19	3	6	13	4	72
	与保呂	5	37	22	7	0	11	2	84
	志楽	21	56	50	19	5	33	6	190
	朝来	13	45	37	15	8	23	11	152
	東大浦	15	50	34	12	4	36	3	154
	西大浦	20	59	37	11	6	46	7	186
西	旧町	0	7	3	1	1	7	1	20
	四所	13	57	37	13	15	28	4	167
	高野	17	52	38	10	15	14	4	150
	中筋	2	21	15	3	5	4	2	52
	池内	15	58	43	25	10	35	7	193
	余内	2	25	23	9	8	16	4	87
加佐	岡田上	5	37	22	7	1	16	2	90
	岡田中	6	36	22	6	2	9	3	84
	岡田下	14	51	34	8	1	7	3	118
	八雲	25	69	36	18	4	20	10	182
	神崎	8	22	12	10	4	11	3	70
合計	198	738	505	192	103	355	82	2,173	

【主な特徴】

- ▶ 地域別に「農業経営を縮小したい」「農業をやめたい」理由を比較すると、東地域では「有害鳥獣被害（19.6%）」、西地域では「基盤未整備（8.1%）」、加佐地域では「高齢化（39.5%）」が他地域の同一項目と比較するとやや多い結果となっている。

経営種別ごとの農業を縮小したい・やめたい理由(問2×問4)

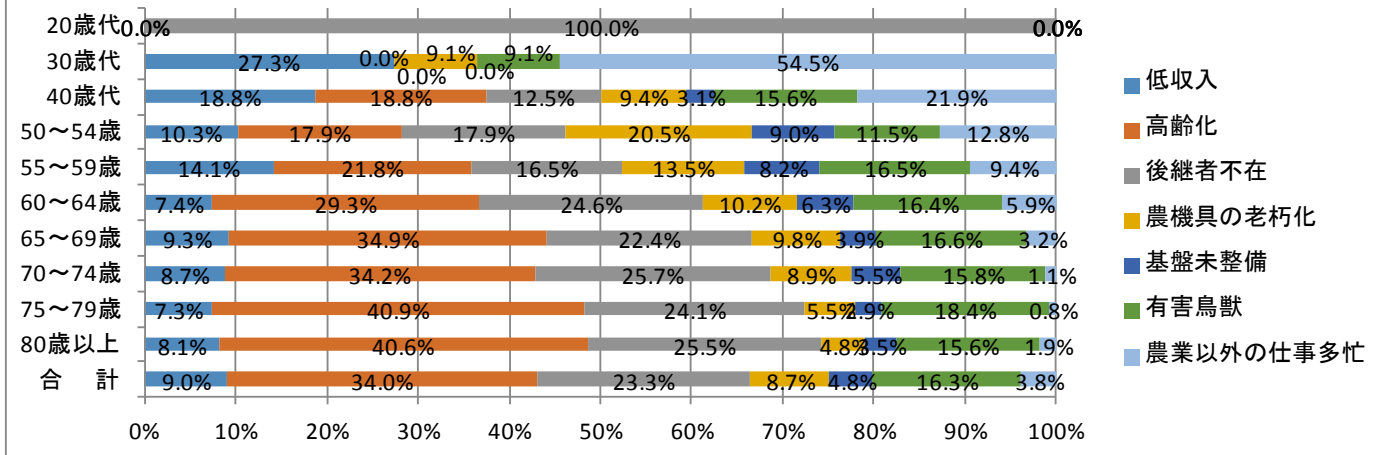


経営種別	低収入	高齢化	後継者不在	農機具の老朽化	基盤未整備	有害鳥獣	農業以外の仕事多忙	合計
自給的農家	66	325	244	72	48	160	27	942
第1種兼業農家	12	30	14	3	2	15	4	80
第2種兼業農家	99	283	187	99	43	141	48	900
専業農家	18	58	29	13	5	22	0	145
合計	195	696	474	187	98	338	79	2,067

【主な特徴】

- 自給的農家は「後継者不足 (25.9%)」、第1種兼業農家は「低収入 (15.0%)」、第2種兼業農家は「農機具の老朽化 (11.0%)」、専業農家は「高齢化 (40.0%)」が他種別の同一項目と比較するとやや多い結果となっている。

《参考集計》年齢ごとの農業を縮小したい・やめたい理由(“年齢”×問4)



年齢	低収入	高齢化	後継者不在	農機具の老朽化	基盤未整備	有害鳥獣	農業以外の仕事多忙	合計
20歳代	0	0	1	0	0	0	0	1
30歳代	3	0	0	1	0	1	6	11
40歳代	6	6	4	3	1	5	7	32
50～54歳	8	14	14	16	7	9	10	78
55～59歳	24	37	28	23	14	28	16	170
60～64歳	19	75	63	26	16	42	15	256
65～69歳	38	143	92	40	16	68	13	410
70～74歳	38	149	112	39	24	69	5	436
75～79歳	28	156	92	21	11	70	3	381
80歳以上	30	151	95	18	13	58	7	372
合計	194	731	501	187	102	350	82	2,147

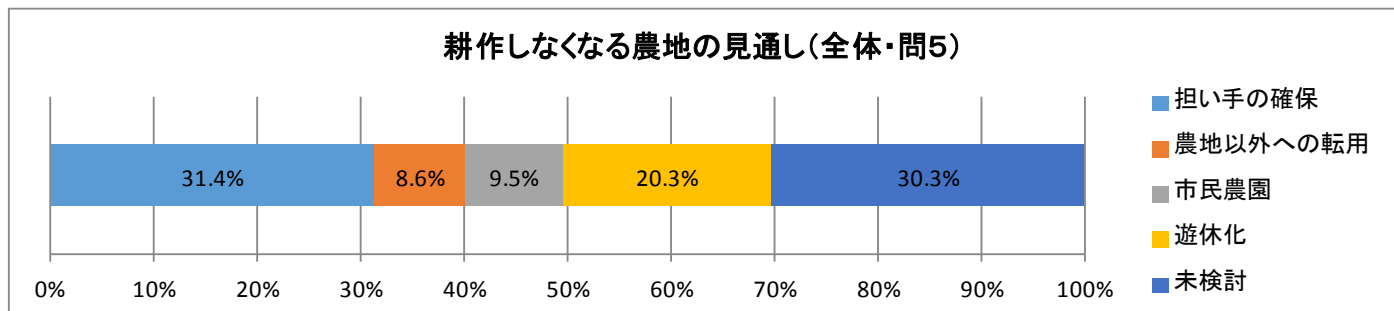
【主な特徴】

- 「農業経営を縮小したい」「農業をやめたい」理由として、30～40代では他の年代層と比較して、「低収入」の割合が多い(30歳代:27.3%、40歳代:18.8%)。
- 高齢層になるにつれて、「後継者不足」の占める割合が多くなる。

問5 問3で「3 縮小したい」または「4 農業をやめたい」を選ばれた方は、耕作しなくなる農地をどうしようと考えていますか。(複数回答可)

- 1 耕作してもらえる担い手農家や集落の営農組織があれば、耕作してほしい
- 2 宅地や駐車場、太陽光パネルなど、農地以外に転用したい
- 3 市街地の住民などが市民農園として使いたい希望があれば使ってもら
- 4 遊休化して荒らしても仕方がない
- 5 まだどうするか考えていない
- 6 その他(具体的に⇒)

【集計結果】「3 縮小したい」(380人)と「4 やめたい」(623人)の計1,003人の回答



担い手の確保	農地以外への転用	市民農園	遊休化	未検討	合計
426	117	129	275	411	1,358

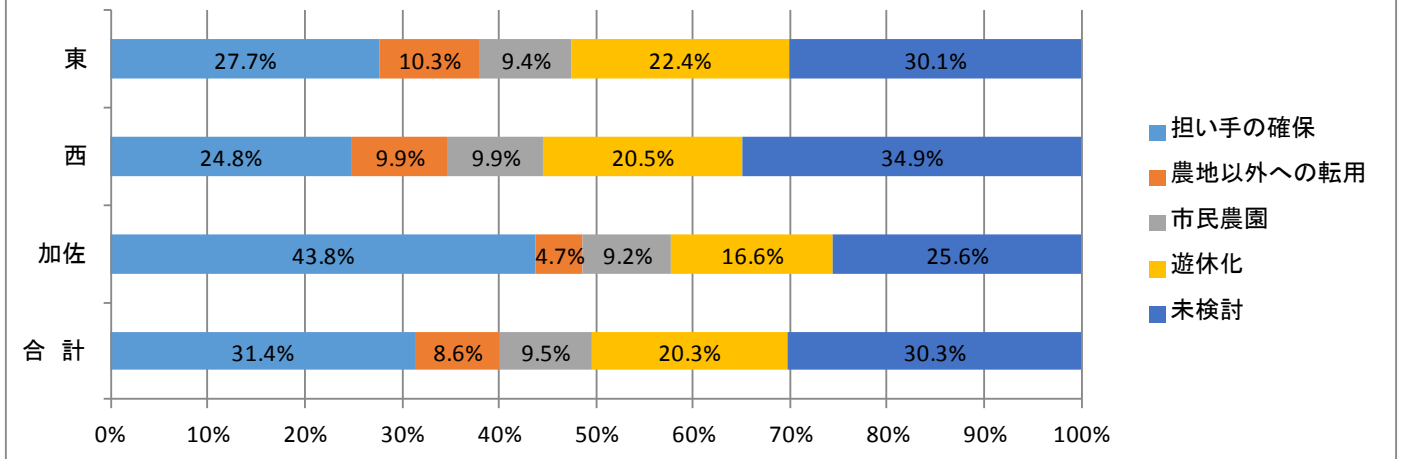
【主な特徴】

- 回答者の31.4%が、担い手がいれば耕作してほしいと回答している。
- 一方、耕作しなくなる農地の見通しとして、「遊休化しても仕方がない(20.3%)」「未検討(30.3%)」を合わせると50.6%を占める。

● 「6 その他」の具体的な意見

- 買い手がいれば売りたい
- 農地の貸し手に返却する
- 借地にする

在住地域ごとの耕作しなくなる農地の見通し(“お住まいの集落”×問5)

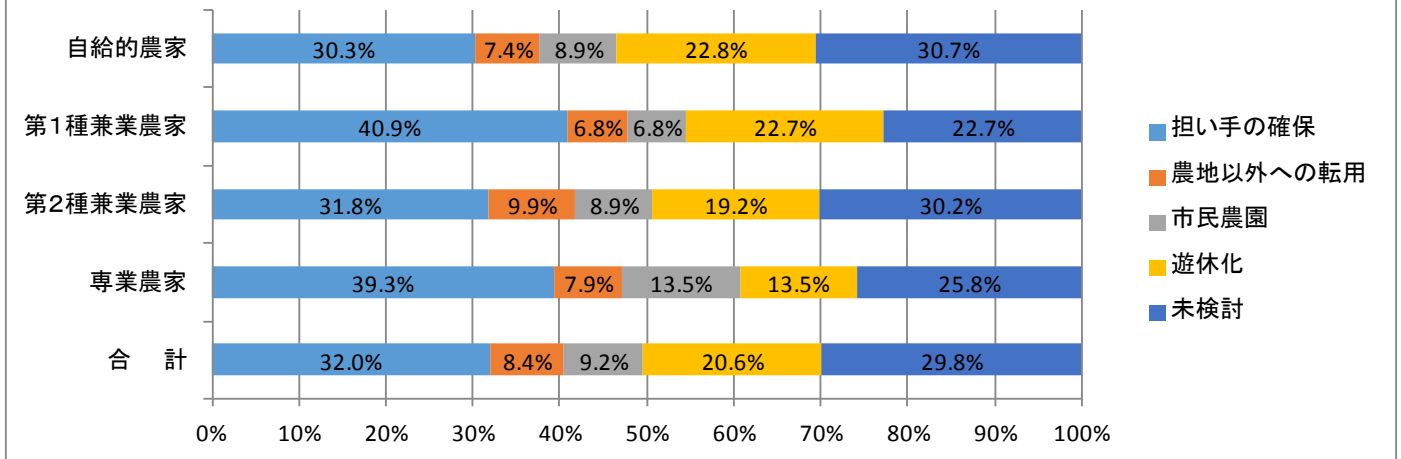


地域名	地区名	担い手の確保	農地以外への転用	市民農園	遊休化	未検討	合計
東	中舞鶴	0	0	1	1	1	3
	祖母谷	18	13	7	13	16	67
	倉梯	9	6	4	14	14	47
	与保呂	19	4	6	5	14	48
	志楽	27	17	8	22	39	113
	朝来	28	7	11	25	25	96
	東大浦	30	5	8	24	27	94
	西大浦	31	8	10	27	40	116
西	旧町	1	1	1	2	7	12
	四所	15	7	7	29	35	93
	高野	28	13	10	21	29	101
	中筋	10	3	6	6	13	38
	池内	39	12	11	11	37	110
	余内	5	3	4	12	17	41
加佐	岡田上	22	2	5	14	15	58
	岡田中	30	3	4	7	15	59
	岡田下	49	7	10	15	23	104
	八雲	50	6	9	20	34	119
	神崎	15	0	7	7	10	39
合計		426	117	129	275	411	1,358

【主な特徴】

- 加佐地域では、担い手の確保を希望している方が43.8%と他地域より多い一方で、東・西地域では半数以上の方が「遊休化しても仕方ない」「未検討」と回答している。

経営種別ごとの耕作しなくなる農地の見通し(問2×問5)

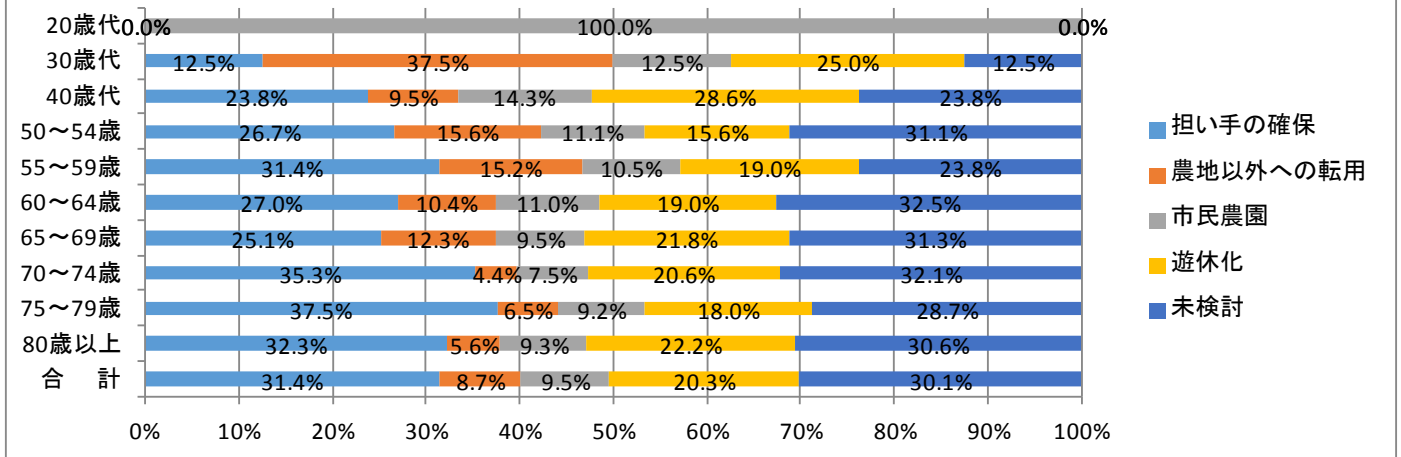


経営種別	担い手の確保	農地以外への転用	市民農園	遊休化	未検討	合計
自給的農家	181	44	53	136	183	597
第1種兼業農家	18	3	3	10	10	44
第2種兼業農家	171	53	48	103	162	537
専業農家	35	7	12	12	23	89
合計	405	107	116	261	378	1,267

【主な特徴】

- 「第1種兼業農家」と「専業農家」は、担い手の確保を希望している方の割合が多い一方で、「自給農家」と「第2種兼業農家」の約半数が「遊休化しても仕方ない」「未検討」と回答している。

《参考集計》 年齢ごとの耕作しなくなる農地の見通し(“年齢”×問5)



年齢	確保の担い手	農地以外への転用	市民農園	遊休化	未検討	合計
20歳代	0	0	1	0	0	1
30歳代	1	3	1	2	1	8
40歳代	5	2	3	6	5	21
50～54歳	12	7	5	7	14	45
55～59歳	33	16	11	20	25	105
60～64歳	44	17	18	31	53	163
65～69歳	61	30	23	53	76	243
70～74歳	89	11	19	52	81	252
75～79歳	98	17	24	47	75	261
80歳以上	80	14	23	55	76	248
合計	423	117	128	273	406	1,347

【主な特徴】

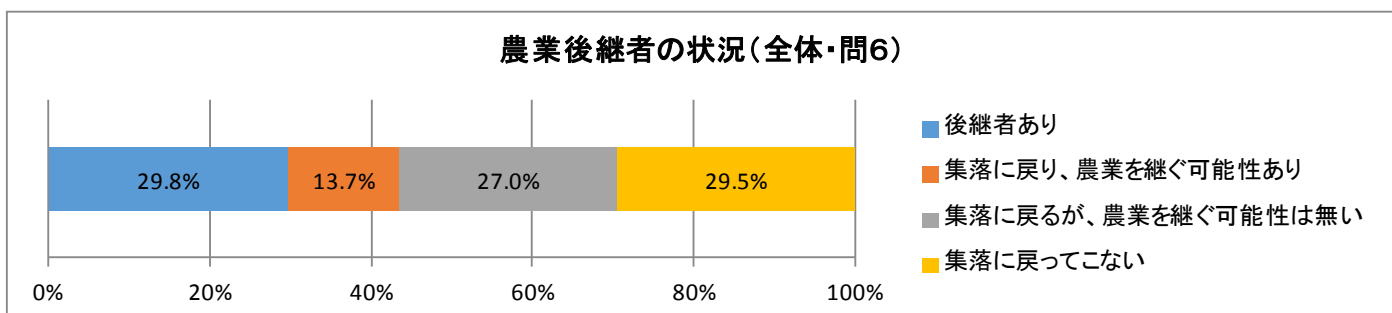
- 高齢層になるにつれて、「耕作してもらえれば担い手があれば耕作してほしい」と回答している割合が増加するのに対して、若年層ほど耕作しなくなる農地を「農地以外に転用したい」「希望があれば市民農園として使ってもらおう」と回答している割合が多くなる。

問6 問6～問8は、あなたの年齢が、60歳以上の場合だけお答えください。

あなたの農家の農業後継者の状況について、1つ選んでください。

- 1 後継者として決まった人または団体がある
- 2 今は集落の外へ出ている家族(※あなたのお子様など)が、将来はこの集落に戻って農業を継ぐ可能性がある
- 3 今は集落の外へ出ている家族が、将来はこの集落に戻って来る見込みだが、農業を継ぐ可能性は無い(または極めて低い)
- 4 現在、集落の外へ出ている家族が、将来ともこの集落に戻って来る見込みが無い(または極めて低い)

【集計結果】

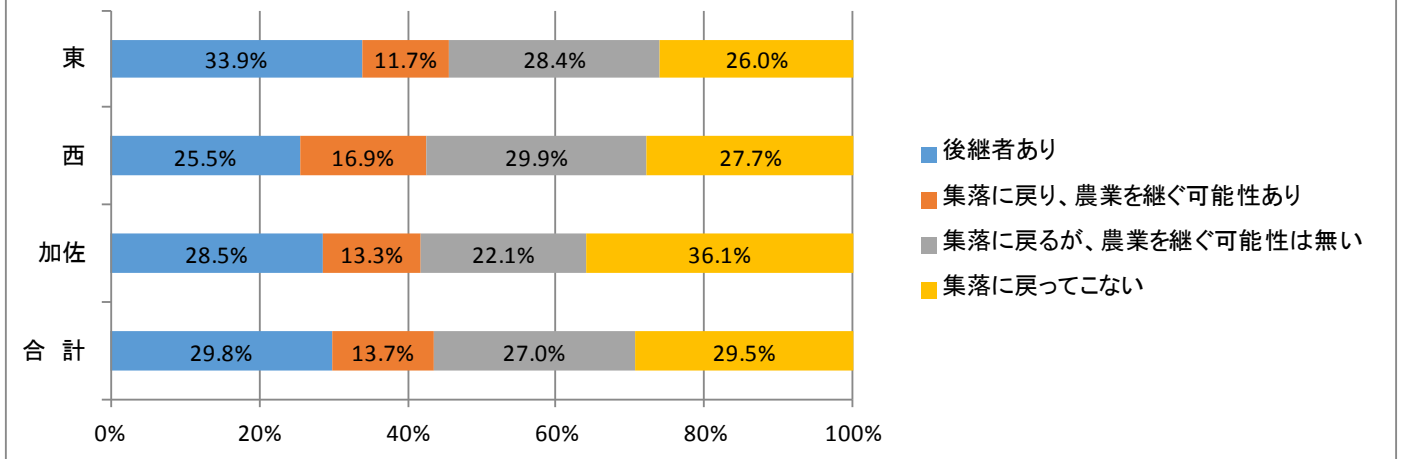


後継者あり	集落に戻り、農業を継ぐ可能性あり	集落に戻るが、農業を継ぐ可能性は無い	集落に戻ってこない	合計
458	211	415	453	1,537

【主な特徴】

- 60歳以上の回答者の56.5%が、後継者がいないと回答している。

在住地域ごとの農業後継者の状況(“お住まいの集落”×問6)

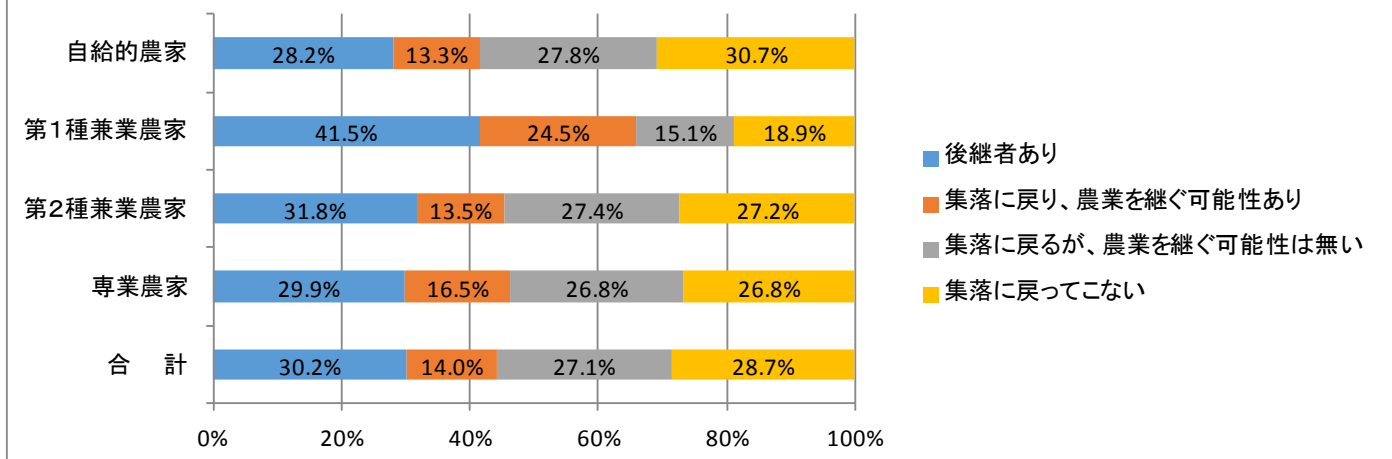


地域別	地区別	後継者あり		集落に戻り、農業を継ぐ可能性あり		集落に戻るが、農業を継ぐ可能性は無い		集落に戻ってこない		合計	
東	中舞鶴	211	0	73	0	177	1	162	1	623	2
	祖母谷		23		6		20		17		66
	倉梯		17		6		24		8		55
	与保呂		37		10		22		19		88
	志楽		31		11		40		32		114
	朝来		40		8		21		23		92
	東大浦		15		13		22		25		75
	西大浦		48		19		27		37		131
	西		旧町		118		5		78		3
四所		15	14	43		32	104				
高野		37	20	34		30	121				
中筋		16	13	13		11	53				
池内		35	20	32		44	131				
余内		10	8	11		10	39				
加佐	岡田上	129	14	60	15	100	21	163	37	452	87
	岡田中		23		14		19		28		84
	岡田下		35		10		25		44		114
	八雲		43		17		26		38		124
	神崎		14		4		9		16		43
合計		458		211		415		453		1,537	

【主な特徴】

- 東地域では「後継者あり」と回答した割合が33.9%と他地域よりも多い。
- 加佐地域では、「集落に戻ってこない」と回答した割合が36.1%と他地域よりも多い。

経営種別ごとの農業後継者の状況(問2×問6)



経営種別	後継者あり	集落に戻り、農業を継ぐ可能性あり	集落に戻るが、農業を継ぐ可能性は無い	集落に戻ってこない	合計
自給的農家	207	98	204	226	735
第1種兼業農家	22	13	8	10	53
第2種兼業農家	188	80	162	161	591
専業農家	29	16	26	26	97
合計	446	207	400	423	1,476

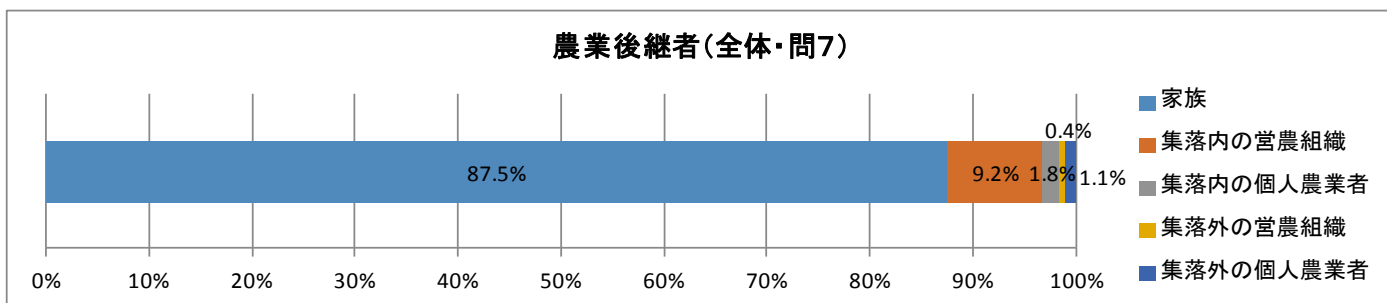
【主な特徴】

- 第1種兼業農家は、「後継者あり（41.5%）」「集落に戻り、農業を継ぐ可能性あり（24.5%）」と回答した割合が66.0%と他の経営種別よりも多い。

問7 問6で「1 後継者として決まった人または団体がある」を選ばれた方は、次の中で、どなたを農業後継者として考えていますか？（1つだけ選択）

- 1 あなたの家族
- 2 集落内の営農組織
- 3 集落内の個人農業者
- 4 集落外の営農組織
- 5 集落外の個人農業者
- 6 市内の農業法人
- 7 その他（具体的に⇒）

【集計結果】「1 後継者として決まった人または団体がある」（458人）の回答



家族	集落内の営農組織	集落内の個人農業者	集落外の営農組織	集落外の個人農業者	市内の農業法人	合計
399	42	8	2	5	0	456

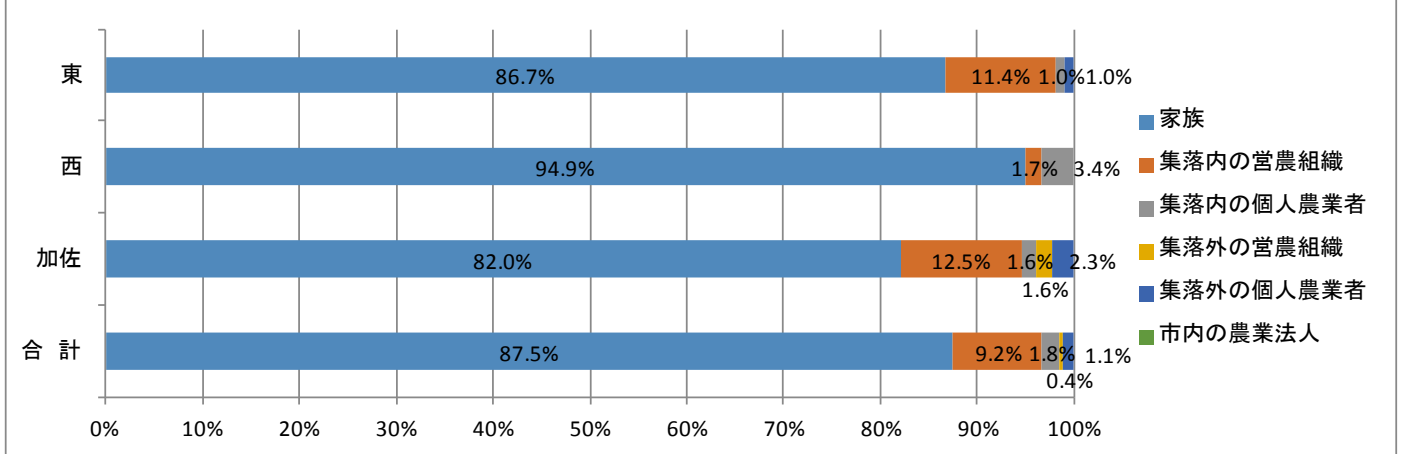
【主な特徴】

- 回答者の87.5%が家族を後継者にすると回答している。

● 「7 その他」の具体的な意見

- 農業に興味のある方なら誰でもよい

在住地域ごとの農業後継者(”お住まいの集落”×問7)

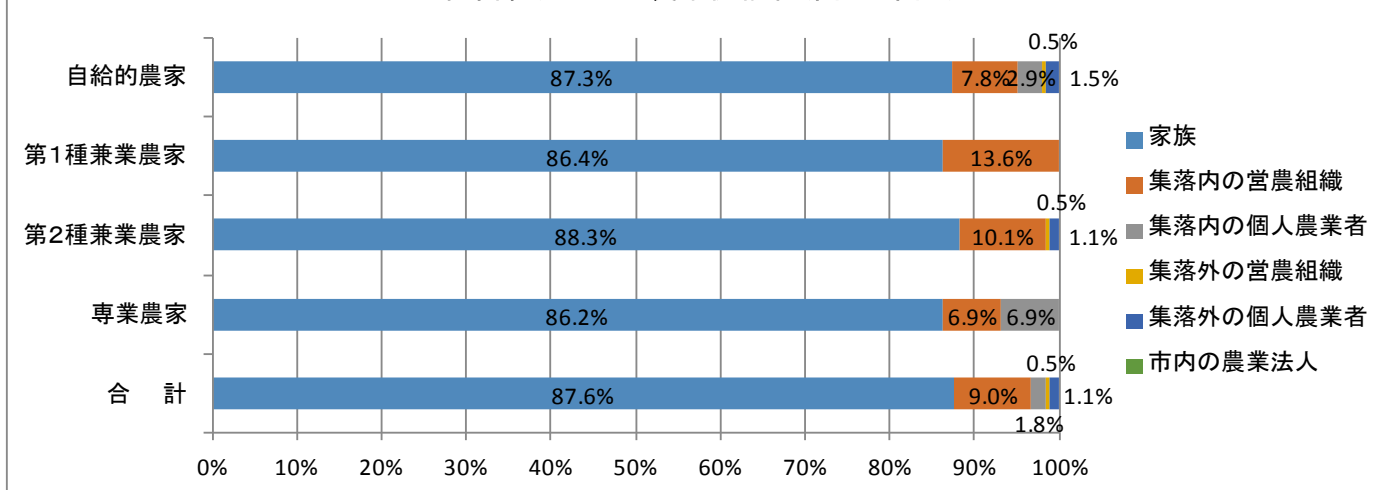


地域名	地区名	家族	集落内の営農組織	集落内の個人農業者	集落外の営農組織	集落外の個人農業者	市内の農業法人	合計
東	中舞鶴	0	0	0	0	0	0	0
	祖母谷	22	1	0	0	0	0	23
	倉梯	17	0	0	0	0	0	17
	与保呂	20	17	2	0	0	0	37
	志楽	29	2	0	0	2	0	31
	朝来	37	0	1	0	1	0	39
	東大浦	14	0	0	0	1	0	15
	西大浦	43	4	1	0	0	0	48
	合計	182	24	2	0	2	0	210
西	旧町	5	0	0	0	0	0	5
	四所	15	0	0	0	0	0	15
	高野	36	1	4	0	0	0	37
	中筋	15	0	1	0	0	0	16
	池内	31	1	3	0	0	0	35
	余内	10	0	0	0	0	0	10
合計	112	2	4	0	0	0	118	
加佐	岡田上	12	2	0	0	0	0	14
	岡田中	18	4	0	0	0	0	22
	岡田下	28	3	2	1	3	0	35
	八雲	34	7	1	0	1	0	43
	神崎	13	0	0	1	0	0	14
合計	105	16	2	2	3	0	128	
合計	399	42	8	2	5	0	456	

【主な特徴】

- 東地域と加佐地域では、後継者として集落内の営農組織を位置付けている割合が西地域（1.7%）と比較して多い（東地域：11.4%、加佐地域：12.5%）。

経営種別ごとの農業後継者(問2×問7)



経営種別	家族	集落内の 営農組織	集落内の 個人農業者	集落外の 営農組織	集落外の 個人農業者	市内の 農業法人	合計
自給的農家	179	16	6	1	3	0	205
第1種兼業農家	19	3	0	0	0	0	22
第2種兼業農家	166	19	0	1	2	0	188
専業農家	25	2	2	0	0	0	29
合計	389	40	8	2	5	0	444

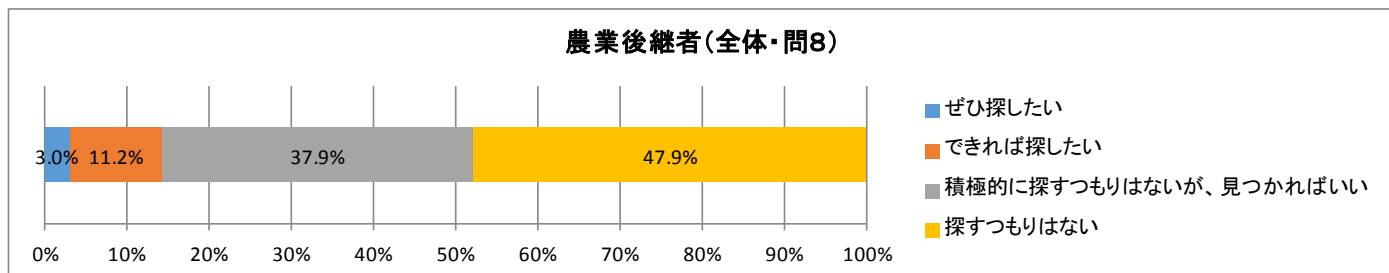
【主な特徴】

- どの経営種別においても、「家族」「集落内の営農組織」を合わせると 90%以上を占める。

問8 問6で「3」または「4」を選ばれた方におたずねします。

- 1 ぜひ後継者を探したい 2 できれば後継者を探したい
- 3 積極的に後継者を探すことまではするつもりはないが、見つければいいと思う
- 4 後継者を探すつもりはない

【集計結果】「3 集落に戻る見込みだが、農業を継ぐ可能性は無い」(415人)と「4 集落に戻って来る見込みが無い」(453人)の計868人の回答

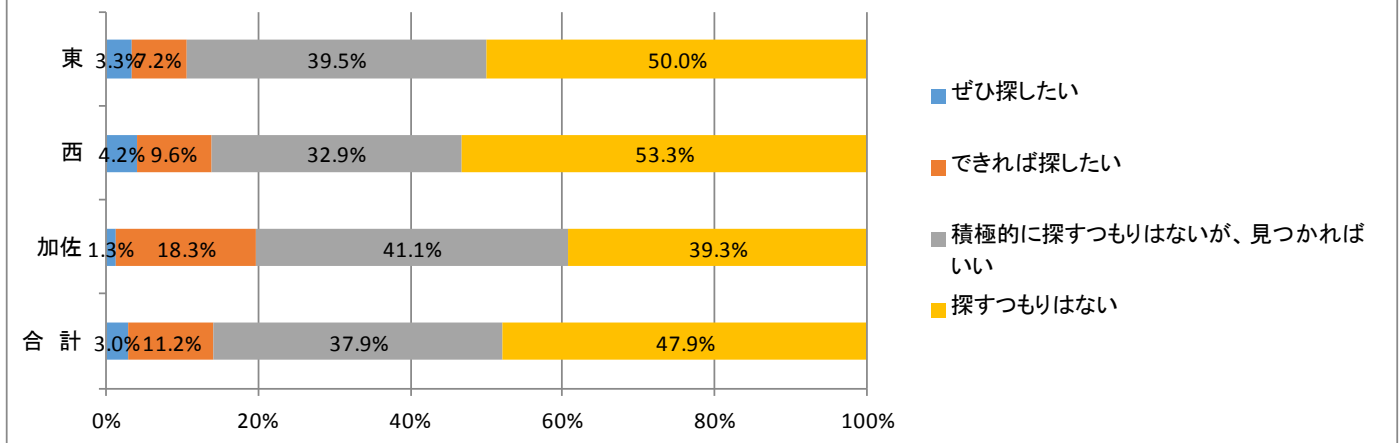


ぜひ探したい	できれば探したい	積極的に探すつもりはないが、見つければいい	探すつもりはない	合計
23	86	291	368	768

【主な特徴】

- 後継者がいないと回答した方のうち、「積極的に後継者を探すことまではするつもりはない (37.9%)」と「後継者を探すつもりはない (47.9%)」とを合わせると 85.8%を占める。

在住地域ごとの農業後継者(“お住まいの集落”×問8)

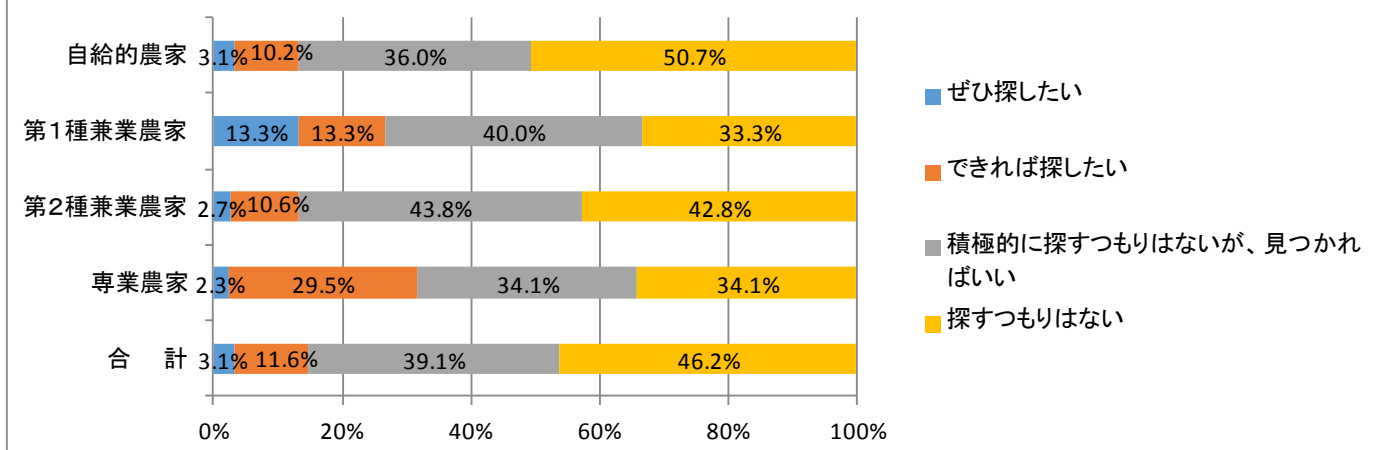


地域名	地区名	ぜひ探したい	できれば探したい	積極的に探すつもりはないが、見つければいい	探すつもりはない	合計
東	中舞鶴	0	0	1	1	2
	祖母谷	2	2	16	11	31
	倉梯	1	0	15	15	31
	与保呂	0	1	15	17	33
	志楽	3	5	26	36	70
	朝来	0	3	18	16	37
	東大浦	1	6	10	24	41
	西大浦	3	5	19	32	59
西	旧町	0	0	1	5	6
	四所	1	4	20	44	69
	高野	3	6	22	27	58
	中筋	0	2	8	9	19
	池内	6	11	21	30	68
	余内	0	0	7	13	20
加佐	岡田上	1	6	17	21	45
	岡田中	0	9	19	10	38
	岡田下	1	11	28	25	65
	八雲	0	8	24	21	53
	神崎	1	7	4	11	23
合計	23	86	291	368	768	

【主な特徴】

- 加佐地域では、「ぜひ探したい (1.3%)」と「できれば探したい (18.3%)」とを合わせると 19.6%と他地域よりも多い。

経営種別ごとの農業後継者(問2×問8)



経営種別	ぜひ探したい	できれば探したい	積極的に探すつもりはないが、見つければいい	探すつもりはない	合計
自給的農家	12	39	138	194	383
第1種兼業農家	2	2	6	5	15
第2種兼業農家	8	31	128	125	292
専業農家	1	13	15	15	44
合計	23	85	287	339	734

【主な特徴】

- 「第1種兼業農家」と「専業農家」は後継者を探したいと希望している方が多い（それぞれ 26.6%、31.8%）一方、「自給農家」と「第2種兼業農家」の多く（それぞれ 86.7%、86.6%）は探すつもりはないと回答している。

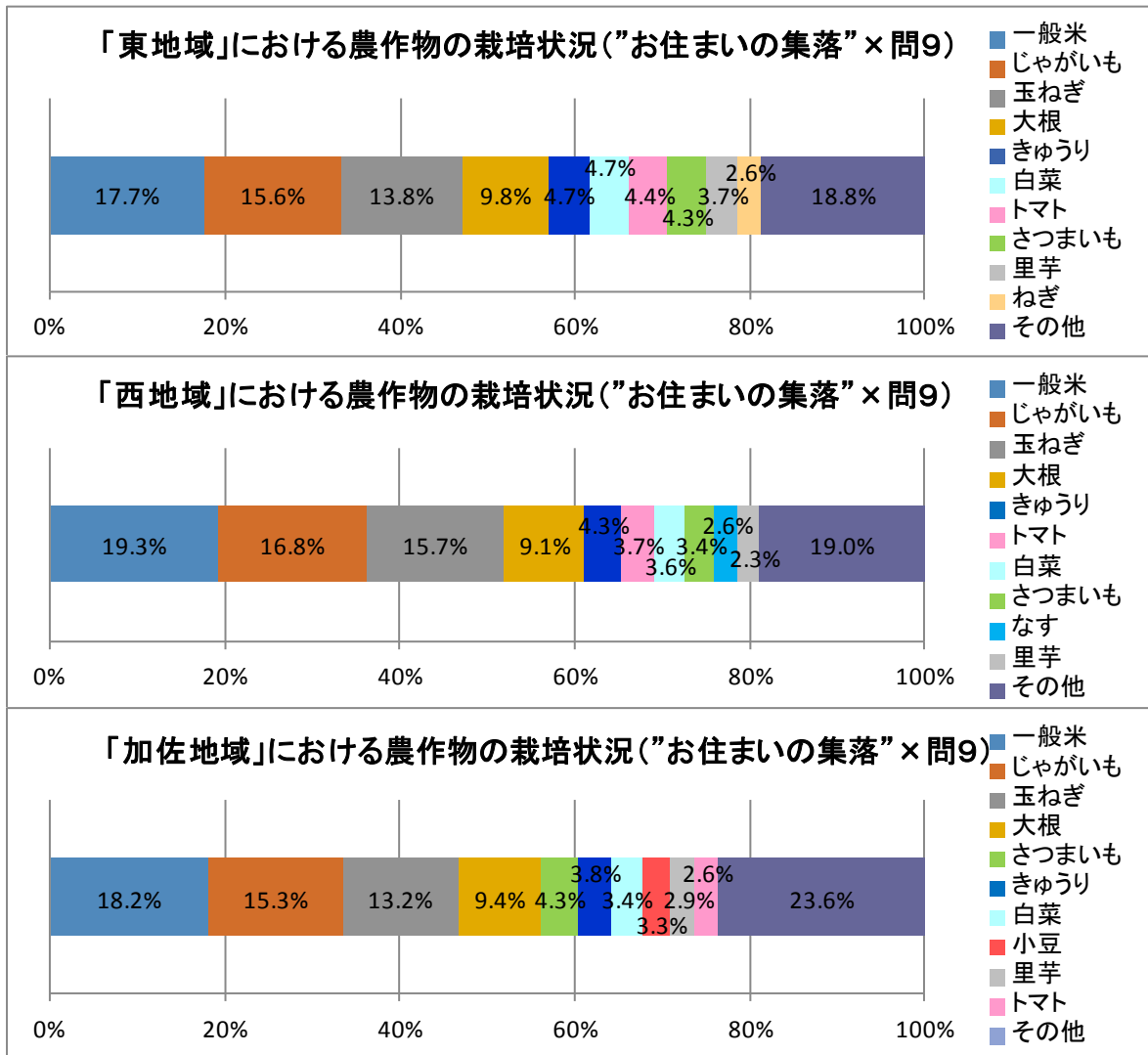
問9 あなたが栽培している農作物で、量が多いものを、下の表から選んで、多い順に5つあげてください。表になければ具体的作物名をご記入ください。

1
2
3
4
5

一般米、特別栽培米、酒米、飼料用米、麦、そば、大豆、小豆、さつまいも、じゃがいも、里芋、その他イモ類、枝豆、なす、万願寺とうがらし、きゅうり、かぼちゃ、大根、かぶ、キャベツ、レタス、白菜、ピーマン、アスパラガス、玉ねぎ、ねぎ、トマト、イチゴ、ほうれんそう、きのこ、花、養鶏、酪農、果樹、山菜、その他

【集計結果】

順位	農作物種類	件数	割合	順位	農作物種類	件数	割合
1	一般米	1,403	18.36%	31	すいか	11	0.14%
2	じゃがいも	1,211	15.85%	32	アスパラガス	10	0.13%
3	玉ねぎ	1,085	14.20%	33	山菜	10	0.13%
4	大根	722	9.45%	34	酒米	9	0.12%
5	きゅうり	325	4.25%	35	にんにく	9	0.12%
6	さつまいも	307	4.02%	36	そば	6	0.08%
7	白菜	304	3.98%	37	人参	6	0.08%
8	トマト	282	3.69%	38	飼料用米	5	0.07%
9	里芋	234	3.06%	39	養鶏	5	0.07%
10	なす	196	2.57%	40	トウモロコシ	5	0.07%
11	ねぎ	165	2.16%	41	みかん	5	0.07%
12	かぼちゃ	147	1.92%	42	ごぼう	3	0.04%
13	キャベツ	145	1.90%	43	ふき	3	0.04%
14	万願寺とうがらし	139	1.82%	44	麦	2	0.03%
15	小豆	119	1.56%	45	れんげ	2	0.03%
16	花	98	1.28%	46	ブロッコリー	2	0.03%
17	果樹	90	1.18%	47	えんどう	2	0.03%
18	ほうれんそう	89	1.16%	48	ごま	2	0.03%
19	ピーマン	82	1.07%	49	酪農	1	0.01%
20	大豆	62	0.81%	50	黒豆	1	0.01%
21	その他	59	0.77%	51	養蜂	1	0.01%
22	イチゴ	57	0.75%	52	生姜	1	0.01%
23	特別栽培米	52	0.68%	53	そらまめ	1	0.01%
24	その他イモ類	38	0.50%	54	らっきょう	1	0.01%
25	枝豆	37	0.48%	55	カリフラワー	1	0.01%
26	かぶ	20	0.26%	56	エゴマ	1	0.01%
27	レタス	20	0.26%	57	レンコン	1	0.01%
28	落花生	17	0.22%	58	オクラ	1	0.01%
29	茶	15	0.20%	59	ゴーヤ	1	0.01%
30	きのこ	13	0.17%				



《地域別の集計結果（上位 10 品目）》

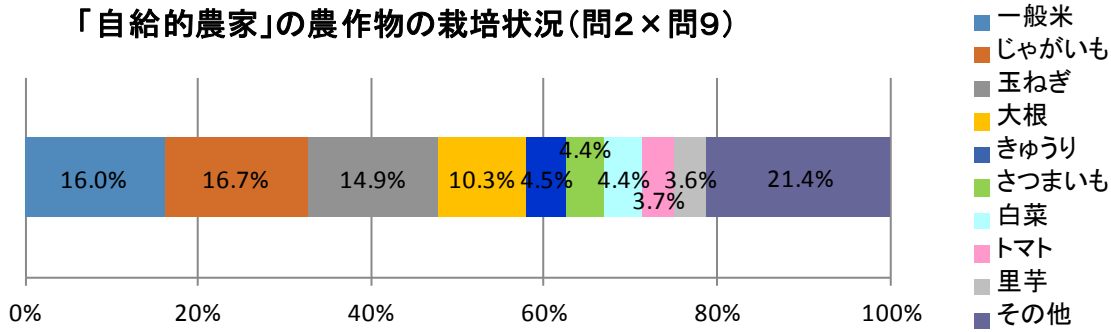
東		西		加佐	
一般米	545	一般米	439	一般米	403
じゃがいも	481	じゃがいも	383	じゃがいも	338
玉ねぎ	426	玉ねぎ	358	玉ねぎ	292
大根	302	大根	208	大根	208
きゅうり	144	きゅうり	97	さつまいも	96
白菜	144	トマト	85	きゅうり	84
トマト	136	白菜	81	白菜	76
さつまいも	133	さつまいも	78	小豆	72
里芋	114	なす	60	里芋	65
ねぎ	81	里芋	53	トマト	58
その他	579	その他	432	その他	523
合計	3,085	合計	2,274	合計	2,215

【主な特徴】

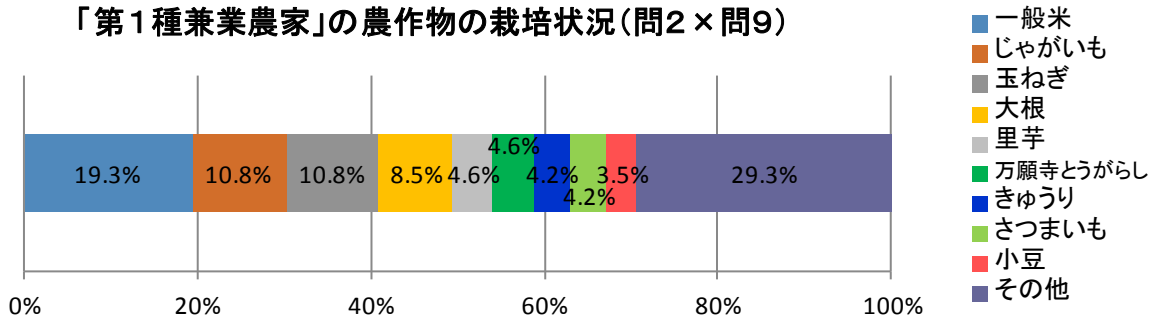
- 各地域とも、生産量の多い順は、一般米、じゃがいも、玉ねぎ、大根である。
- 加佐地域在住者の 3.3%が、生産量の多い作物として小豆を挙げている。

順位	農作物種類	東地域					西地域					加佐地域					合計								
		中舞鶴	相母谷	倉橋	与保呂	志楽	朝来	東大浦	西大浦	日町	四所	高野	中筋	池内	余内	岡田上		岡田中	岡田下	八雲	神崎				
1	一般米	545	1	61	37	71	88	71	91	125	439	9	90	116	60	131	33	403	78	86	84	124	31	1,387	
2	じゃがいも	481	2	56	46	71	95	72	58	81	383	9	78	91	53	119	33	338	56	67	82	98	35	1,202	
3	よねぎ	426	2	42	43	68	85	59	54	73	358	13	70	82	54	107	32	292	29	45	70	82	35	1,076	
4	大豆	302	2	31	27	40	58	38	36	70	208	12	46	54	22	53	21	208	29	45	50	61	23	718	
5	きゅうり	144	0	18	16	22	18	18	23	29	97	3	16	23	16	33	6	84	15	21	19	22	7	325	
6	さつまいも	133	0	15	12	16	33	14	8	35	78	1	19	22	11	18	7	96	11	13	28	25	19	307	
7	白菜	144	2	24	11	20	31	24	13	19	81	5	14	21	6	25	10	76	13	19	18	22	4	301	
8	トマト	136	0	22	20	18	25	14	13	24	85	4	16	16	15	27	7	58	10	13	17	12	6	279	
9	里芋	114	0	20	11	19	28	10	13	53	53	4	10	10	6	16	7	65	13	13	20	12	7	232	
10	なす	80	0	13	5	8	12	12	15	15	60	1	7	18	4	25	5	56	11	8	15	18	4	196	
11	ねぎ	81	0	8	4	10	13	11	6	29	47	5	12	8	10	11	1	36	9	4	8	9	6	164	
12	かぼちゃ	53	0	2	3	8	12	7	4	17	51	4	9	16	5	16	5	41	8	9	11	11	2	145	
13	キャベツ	57	0	10	0	2	9	6	6	24	43	2	10	9	4	16	2	44	7	10	9	13	5	144	
14	万願寺とうがらし	40	0	3	2	5	7	6	5	12	50	5	5	13	8	15	4	48	9	17	12	8	2	138	
15	小豆	35	0	1	2	6	4	6	13	3	11	0	1	1	3	5	1	72	11	9	25	25	2	118	
16	花	46	0	4	5	6	13	8	3	7	40	1	6	11	3	14	5	10	2	2	2	2	2	2	96
17	果樹	34	0	1	1	2	2	1	3	24	35	1	8	15	2	4	5	20	7	1	3	7	2	89	
18	ほうれんそう	33	0	9	4	3	3	5	0	9	29	2	9	7	5	4	2	26	7	6	4	7	2	88	
19	ピーマン	39	0	3	2	4	8	11	5	6	23	1	7	8	0	4	3	20	4	3	5	7	1	82	
20	大豆	21	0	5	3	6	4	2	1	0	17	1	2	4	5	3	2	24	2	4	4	9	7	2	62
21	その他	15	0	1	1	1	0	3	5	4	13	1	4	4	1	3	0	29	9	4	7	9	0	57	
22	イチゴ	22	1	2	3	6	0	5	3	2	10	0	4	0	3	2	1	22	5	4	2	7	4	54	
23	特別栽培米	14	0	0	0	1	3	1	5	4	2	0	0	2	0	0	0	34	2	12	5	13	2	50	
24	その他イモ類	9	0	1	1	1	3	0	2	1	12	1	1	5	1	3	1	16	4	4	4	3	1	37	
25	枝豆	10	0	3	0	3	2	0	2	13	0	3	3	3	4	0	13	1	3	3	6	0	0	38	
26	かぶ	10	0	2	1	1	2	0	1	3	4	0	1	0	2	0	1	6	1	0	0	4	1	20	
27	レタス	6	0	0	0	2	1	1	1	1	7	0	3	2	0	2	0	7	0	1	2	3	1	20	
28	落花生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	16	0	0	0	5	11	17	
29	茶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	8	7	0	15	
30	きのこ	8	0	0	1	0	1	0	3	3	2	0	0	0	1	1	0	3	1	0	1	1	0	13	
31	すいか	7	0	0	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	3	0	11	
32	アスパラガス	4	0	0	0	1	1	1	1	1	3	0	1	0	1	1	0	3	0	0	1	2	0	10	
33	山菜	6	0	0	1	1	0	1	0	3	4	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10	
34	酒米	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	2	1	0	8	
35	にんじん	5	0	1	0	1	1	1	1	0	2	0	1	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	9	
36	そば	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	5	
37	人参	3	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	6	
38	飼料用米	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	5	
39	養鶏	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	4	0	0	0	5	
40	トウモロコシ	2	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	5	
41	ひかかん	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
42	ごぼう	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	
43	ふき	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	
44	麦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	2	
45	れんげ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	
46	ブロッコリー	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
47	きんどう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
48	ごま	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
49	酪農	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
50	黒豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
51	養蜂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	
52	生姜	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
53	そらまめ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
54	らっきょう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
55	カリフラワー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
56	エゴマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
57	レンコン	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
58	オクラ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
59	ゴーヤ	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合 計		3,085	10	360	262	424	572	411	395	651	2,274	81	456	563	309	667	198	2,215	377	446	536	638	218	7,574	

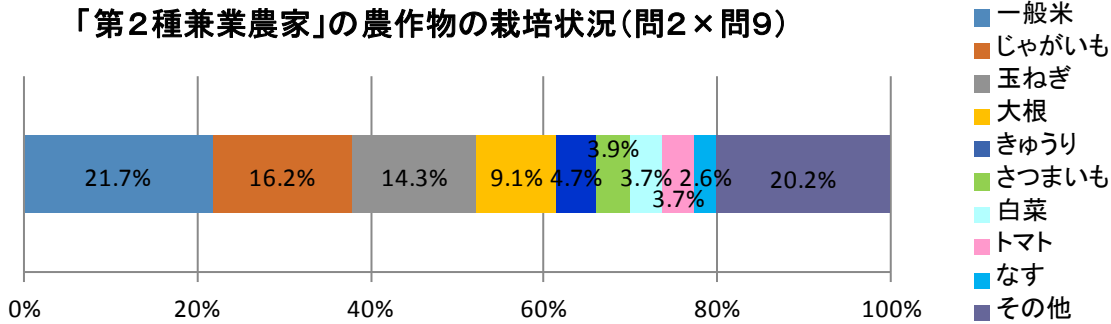
「自給的農家」の農作物の栽培状況(問2×問9)



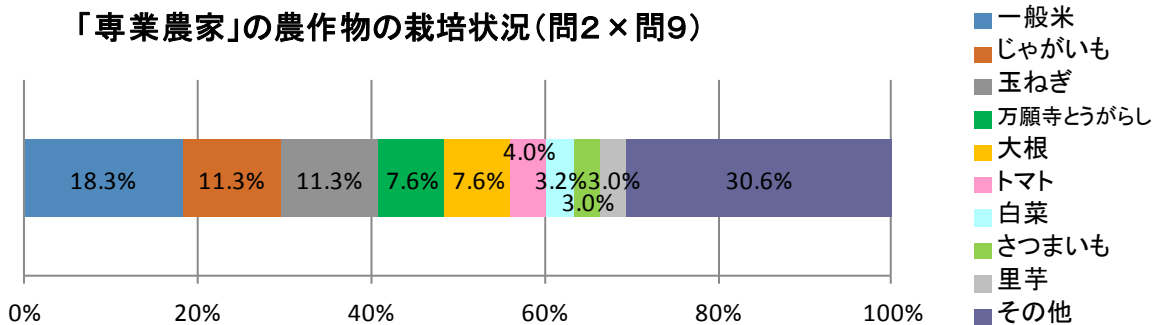
「第1種兼業農家」の農作物の栽培状況(問2×問9)



「第2種兼業農家」の農作物の栽培状況(問2×問9)



「専業農家」の農作物の栽培状況(問2×問9)



《経営種別ごとの集計結果（上位9品目）》

自給的農家		第1種兼業農家		第2種兼業農家		専業農家	
一般米	577	一般米	50	一般米	647	一般米	91
じゃがいも	602	じゃがいも	28	じゃがいも	481	じゃがいも	56
玉ねぎ	537	玉ねぎ	28	玉ねぎ	426	玉ねぎ	56
大根	369	大根	22	大根	270	万願寺とうがらし	38
きゅうり	161	里芋	12	きゅうり	139	大根	38
さつまいも	160	万願寺とうがらし	12	さつまいも	115	トマト	20
白菜	158	きゅうり	11	白菜	111	白菜	16
トマト	134	さつまいも	11	トマト	110	さつまいも	15
里芋	130	小豆	9	なす	76	里芋	15
その他	769	その他	76	その他	600	その他	152
合計	3,597	合計	259	合計	2,975	合計	497

【主な特徴】

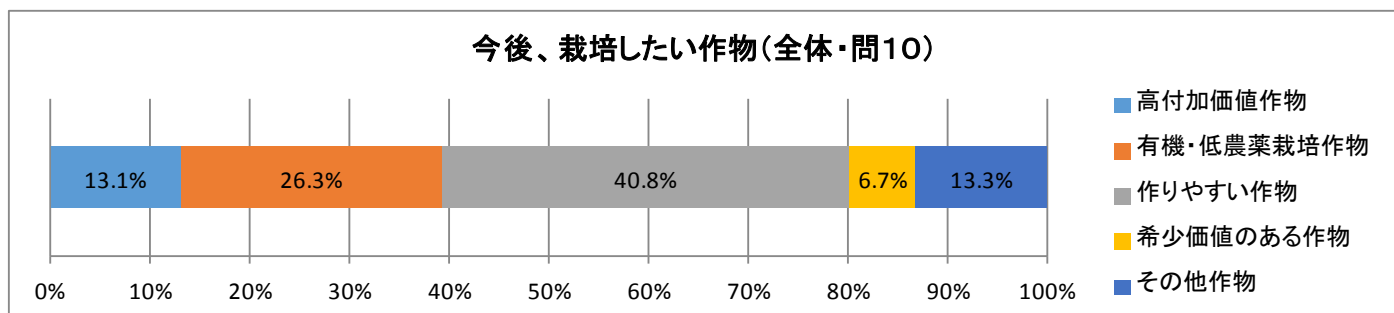
- どの種別も生産量の多い順は、一般米、じゃがいも、玉ねぎである。
- 第1種兼業農家の4.6%と専業農家の7.6%が、万願寺とうがらしを生産量の多い作物として回答している。
- 第1種兼業農家の3.5%が、小豆を生産量の多い作物として回答している。

問10 あなたは、今後どのような作物を栽培していきたいと考えていますか。

(複数回答可)

- 1 農業収入を増やすため、よく売れる作物、価格が低くない作物
- 2 有機栽培や低農薬栽培など、より安全で安心して消費してもらえる作物
- 3 栽培技術が易しく、病害虫に強い、作りやすい作物
- 4 他の農家や地域で栽培していないような、珍しい希少価値のある作物
- 5 その他(具体的に⇒)

【集計結果】



高付加価値作物	有機・低農薬栽培作物	作りやすい作物	希少価値のある作物	その他作物	合計
254	511	793	130	258	1,946

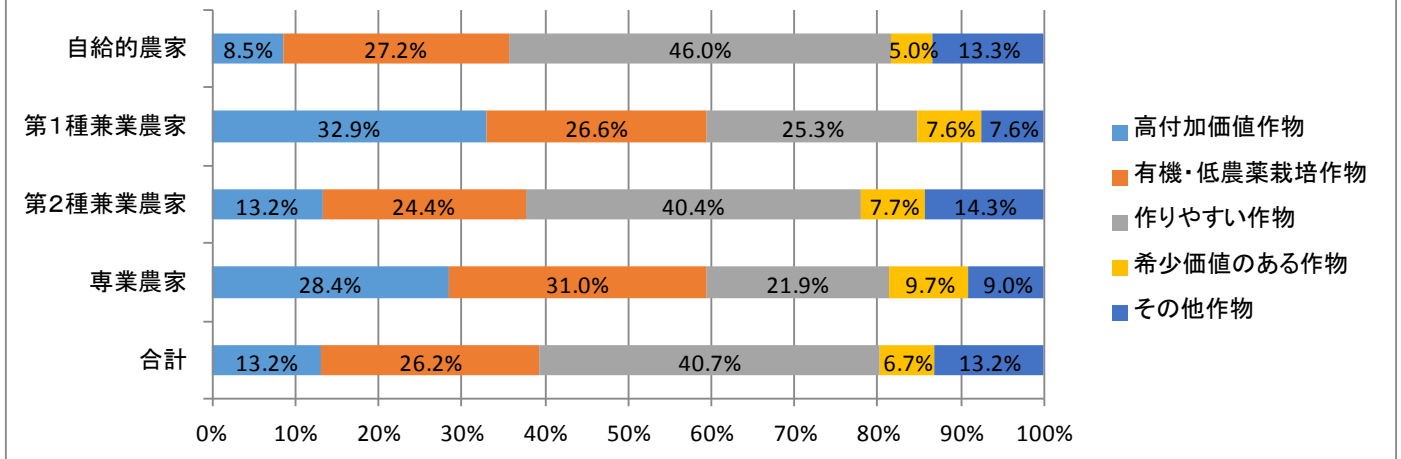
【主な特徴】

- 回答者の40.8%が「栽培技術が易しく、病害虫に強い、作りやすい作物」を栽培したいと回答しており、続いて「有機栽培や低農薬栽培など、より安全で安心して消費してもらえる作物」が26.3%を占める。

● 「5 その他」の具体的な意見

- 水害に強い作物
- 現在栽培している作物を今後も作る
- 自家消費用の作物
- 有害鳥獣に食べられにくい作物
- 特に決めていない

経営種別ごとの今後、栽培したい作物(問2×問10)



経営種別	高付加価値作物	有機・低農薬栽培作物	作りやすい作物	希少価値のある作物	その他作物	合計
自給的農家	71	228	386	42	112	839
第1種兼業農家	26	21	20	6	6	79
第2種兼業農家	111	205	339	65	120	840
専業農家	44	48	34	15	14	155
合計	252	502	779	128	252	1,913

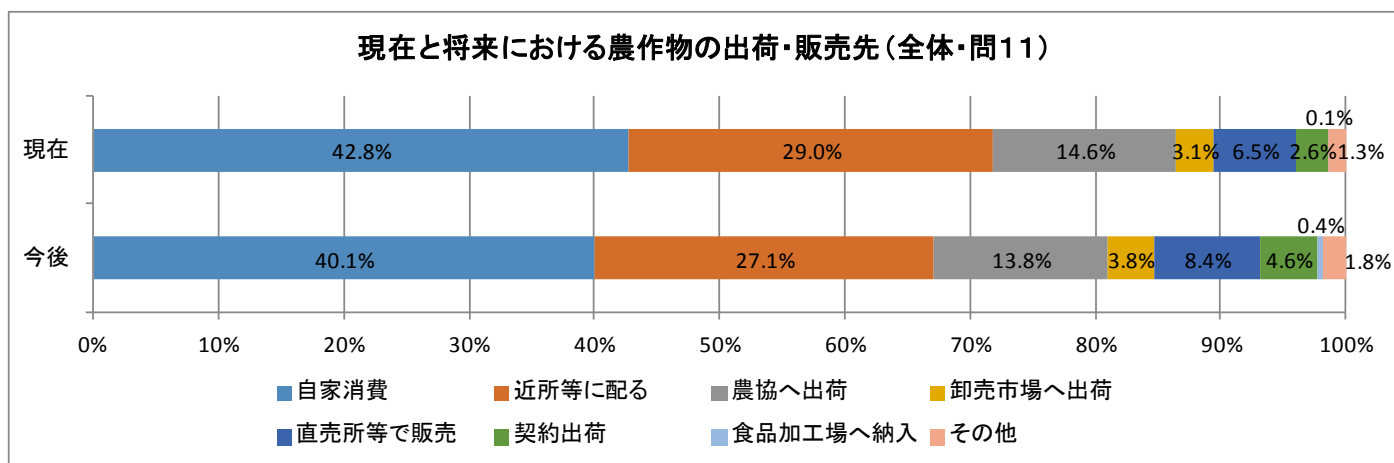
【主な特徴】

- 第1種兼業農家の32.9%、専業農家の28.4%が高付加価値作物を栽培していきたいと回答している一方、自給的農家と第2種兼業農家の40%以上が作りやすい作物を栽培したいと回答している。

問 1 1 あなたが生産した農作物の現在の出荷・販売先などを教えてください。
 また、今後（将来）はどんな出荷・販売先などを希望されますか。
 当てはまる欄に、○を記入してください。（複数回答可）

	現在	今後（将来）
1 自家消費のみ		
2 近所・親戚・知人に配る		
3 農協を通じて出荷		
4 卸売市場へ出荷		
5 朝市や無人販売所、直売所で販売		
6 特定の取引先と契約し出荷		
7 食品加工場へ納入		
8 その他 具体的に→		

【集計結果】



	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
現在	1,340	909	457	96	205	80	2	42	3,131
今後	727	491	251	69	153	83	8	33	1,815

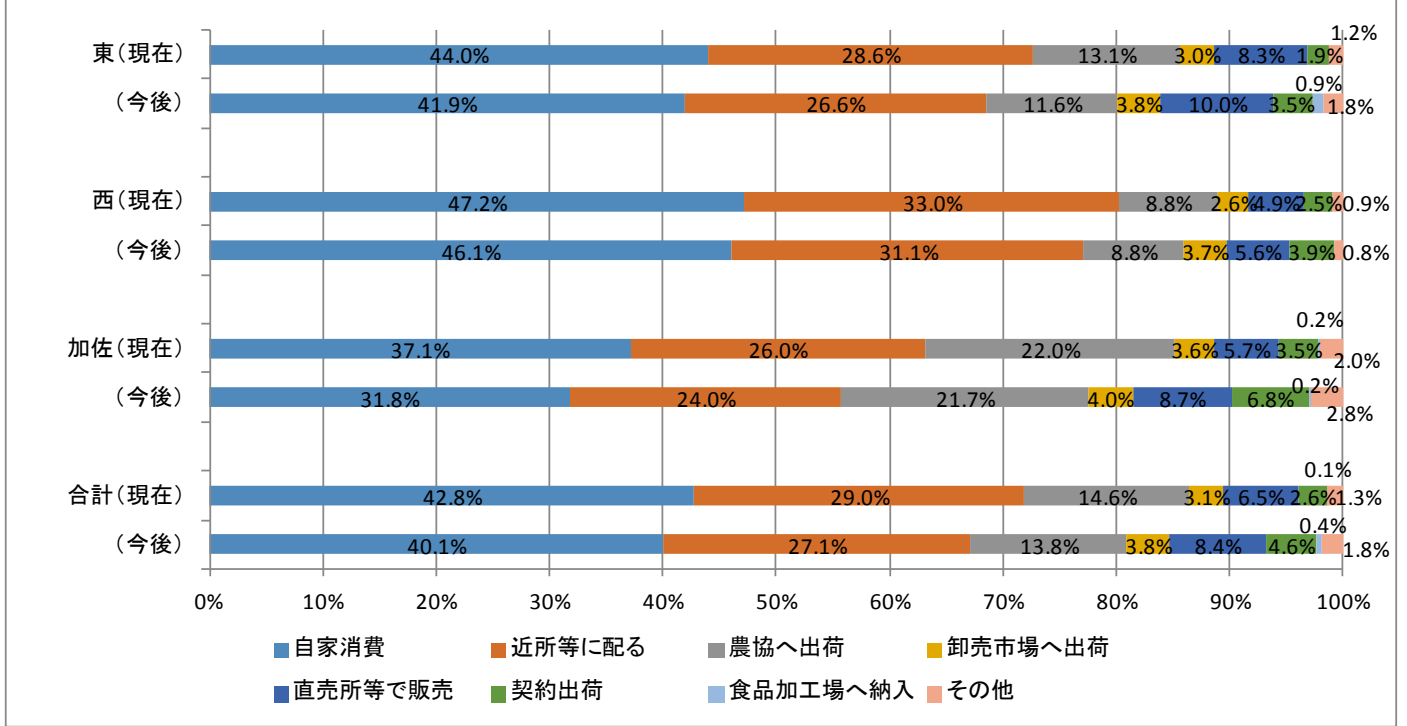
【主な特徴】

- 現在、「自家消費のみ（42.8%）」と「近所等に配る（29.0%）」で 71.8%を占める。
- 今後、「自家消費のみ」「近所等に配る」「農協へ出荷」の割合は減少する方向で、「卸売市場へ出荷」「直売所等で販売」「取引先と契約出荷」「食品加工場へ納入」の割合は増加する方向である。

● 「8 その他」の具体的な意見

- 現在・将来ともに「ネット販売」、「引き売り」

在住地域ごとの現在と将来における農作物の出荷・販売先(“お住まいの集落”×問11)



(現在)

地域別	地区別	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
東	中舞鶴	2	1	0	0	0	0	0	0	3
	祖母谷	57	49	23	9	16	2	0	1	157
	倉梯	58	28	6	1	2	1	0	1	97
	与保呂	81	51	11	1	9	2	0	4	159
	志楽	103	70	31	1	16	3	0	3	227
	朝来	78	44	17	2	16	0	0	0	157
	東大浦	86	48	31	1	8	6	0	1	181
	西大浦	108	81	51	24	41	11	0	5	321
	合計	573	372	170	39	108	25	0	15	1,302
西	旧町	11	12	3	1	1	1	0	0	29
	四所	95	58	7	9	10	1	0	0	180
	高野	97	63	27	3	10	6	0	3	209
	中筋	56	49	13	5	8	2	0	0	133
	池内	113	87	23	3	11	12	0	3	252
	余内	41	20	4	2	3	0	0	2	72
合計	413	289	77	23	43	22	0	8	875	
加佐	岡田上	70	45	27	9	8	9	1	2	171
	岡田中	66	49	46	10	11	9	0	4	195
	岡田下	84	64	47	4	12	5	0	10	226
	八雲	101	65	74	9	11	9	1	3	273
	神崎	33	25	16	2	12	1	0	0	89
合計	354	248	210	34	54	33	2	19	954	
合計	1,340	909	457	96	205	80	2	42	3,131	

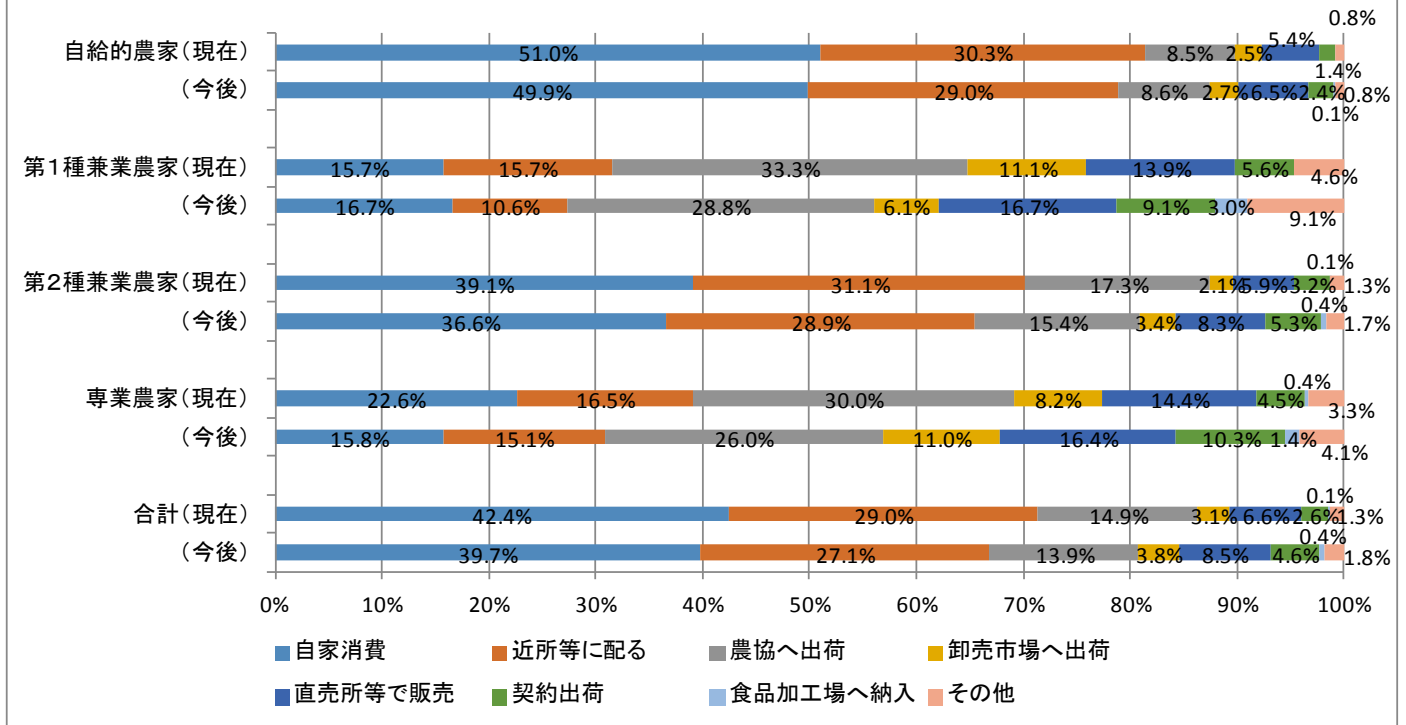
(今後)

地域別	地区別	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
東	中舞鶴	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	祖母谷	33	26	10	7	8	3	0	1	88
	倉梯	38	18	3	0	3	2	0	2	66
	与保呂	60	35	9	0	7	3	0	4	118
	志楽	61	39	20	3	16	4	2	1	146
	朝来	44	25	10	4	13	1	2	1	100
	東大浦	48	30	17	1	6	5	1	2	110
	西大浦	50	39	24	15	27	10	2	3	170
西	旧町	9	8	1	1	1	1	0	0	21
	四所	48	28	7	8	5	1	0	0	97
	高野	44	33	12	2	8	2	0	1	102
	中筋	32	21	10	2	3	1	0	0	69
	池内	66	50	12	2	8	13	0	3	154
	余内	25	11	1	3	2	1	0	0	43
加佐	岡田上	26	20	13	5	5	6	1	1	77
	岡田中	30	23	25	9	14	13	0	5	119
	岡田下	43	34	28	2	7	7	0	7	128
	八雲	52	37	44	5	13	10	0	2	163
	神崎	17	13	5	0	7	0	0	0	42
合計	727	491	251	69	153	83	8	33	1,815	

【主な特徴】

- 加佐地域では、他地域と比較して、「自家消費のみ」「近所等に配る」の割合が少なく、「農協へ出荷」の割合が多い。

経営種別ごとの現在と将来における農作物の出荷・販売先（問2×問11）



（現在）

経営種別	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
自給的農家	705	419	117	35	75	20	0	11	1,382
第1種兼業農家	17	17	36	12	15	6	0	5	108
第2種兼業農家	514	408	227	27	77	42	1	17	1,313
専業農家	55	40	73	20	35	11	1	8	243
合計	1,291	884	453	94	202	79	2	41	3,046

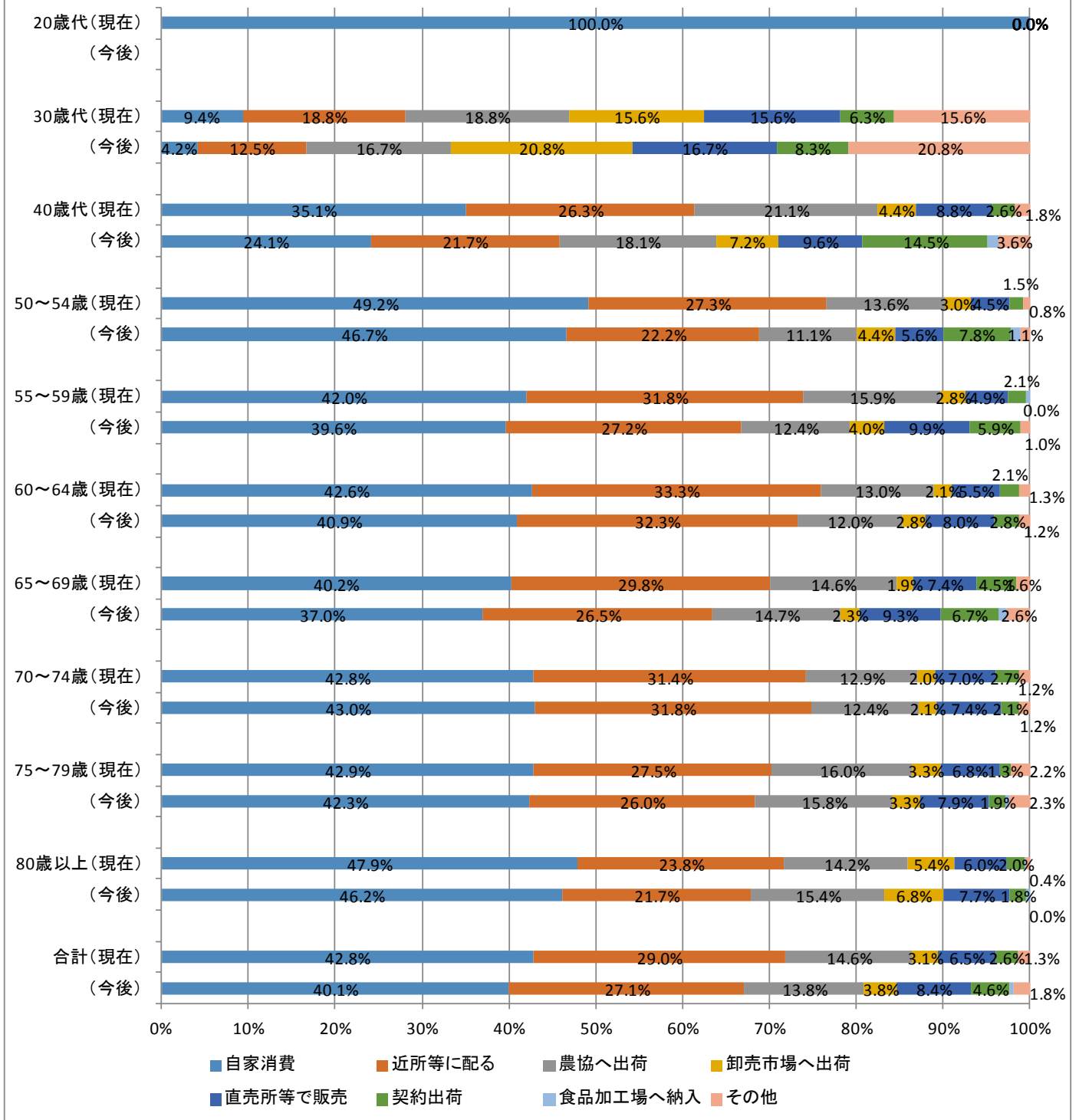
（今後）

経営種別	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
自給的農家	375	218	65	20	49	18	1	6	752
第1種兼業農家	11	7	19	4	11	6	2	6	66
第2種兼業農家	301	238	127	28	68	44	3	14	823
専業農家	23	22	38	16	24	15	2	6	146
合計	710	485	249	68	152	83	8	32	1,787

【主な特徴】

- 自給的農家と第2種兼業農家は、今後も「自家消費のみ」が一番多くを占めるのに対し、第1種兼業農家と専業農家は「農協へ出荷」が一番多くを占める。

《参考集計》 年齢ごとの現在と将来における農作物の出荷・販売先(“年齢”×問11)



(現在)

年齢	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
20歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	1
30歳代	3	6	6	5	5	2	0	5	32
40歳代	40	30	24	5	10	3	0	2	114
50～54歳	65	36	18	4	6	2	0	1	132
55～59歳	119	90	45	8	14	6	1	0	283
60～64歳	200	156	61	10	26	10	0	6	469
65～69歳	251	186	91	12	46	28	0	10	624
70～74歳	209	153	63	10	34	13	0	6	488
75～79歳	195	125	73	15	31	6	0	10	455
80歳以上	239	119	71	27	30	10	1	2	499
合計	1,340	909	457	96	205	80	2	42	3,131

(今後)

年齢	自家消費	近所等に配る	農協へ出荷	卸売市場へ出荷	直売所等で販売	契約出荷	食品加工場へ納入	その他	合計
20歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳代	1	3	4	5	4	2	0	5	24
40歳代	20	18	15	6	8	12	1	3	83
50～54歳	42	20	10	4	5	7	1	1	90
55～59歳	80	55	25	8	20	12	0	2	202
60～64歳	133	105	39	9	26	9	0	4	325
65～69歳	144	103	57	9	36	26	4	10	389
70～74歳	104	77	30	5	18	5	0	3	242
75～79歳	91	56	34	7	17	4	1	5	215
80歳以上	102	48	34	15	17	4	1	0	221
合計	727	491	251	69	153	83	8	33	1,815

【主な特徴】

- 30歳代は、「自家消費のみ」の回答が、他の年代と比較すると極端に少なく、「卸売市場へ出荷」「直売所等で販売」の回答は多い。

アンケート調査票

舞鶴市農家アンケートにご協力をお願いします

舞鶴市では、このたび、今後の本市の農業振興のあり方を示す「舞鶴農業振興地域整備計画」を、約10年ぶりに見直すことになりました。

この見直しにあたりましては、農家の皆さまのご意向を反映していくため、これからの農業経営の見通しなどについてのアンケート調査を実施することになりました。

お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、ご回答内容は、統計的に処理し、回答者が特定されるような集計はいたしません。

アンケートは、世帯の中のどなたかが、世帯を代表してお答えください。

「複数回答可」と記載の項目は、当てはまる項目全てに○をつけてください。

まず、あなたご自身のことについておたずねします。

お住いの集落名	年 齢				性別
	20歳代	30歳代	40歳代	50～54歳	男 女
	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	
	75～79歳	80歳以上			

問1 現在、あなたの農家が耕作されている面積についてお聞きします。

- 1 29a以下 2 30a～49a
3 50a～99a 4 100a以上 (10a=1反)

問2 あなたの農家は、次のどれに当てはまりますか。

- 1 自給的農家（農地が30a未満で農作物の年間販売金額が50万円未満）
- 2 第1種兼業農家（農業所得を主とする兼業農家）
- 3 第2種兼業農家（農業所得以外の所得を主とする兼業農家）
- 4 専業農家

問3 あなたの農家のおよそ10年後の農業経営についてお聞きします。

拡大・縮小予定がある場合は、そのおよその面積を記入してください。

- 1 現状のまま維持したい
- 2 拡大したい 増やす面積 a
- 3 縮小したい 減らす面積 a
- 4 農業をやめたい

問4 問3で「3 縮小したい」または「4 農業をやめたい」を選ばれた方は、その理由をお書きください。(複数回答可)

- 1 農業収入が少ないから
- 2 高齢化などで体力が続かないから
- 3 後継者がいないから
- 4 農機具が老朽化しているから
- 5 農地の区画や農道が狭く、農作業が非効率だから
- 6 有害鳥獣の被害が続いているから
- 7 農業以外の仕事が忙しいから
- 8 その他(具体的に⇒ _____)

問5 問3で「3 縮小したい」または「4 農業をやめたい」を選ばれた方は、耕作しなくなる農地をどうしようと考えていますか。(複数回答可)

- 1 耕作してもらえる担い手農家や集落の営農組織があれば、耕作してほしい
- 2 宅地や駐車場、太陽光パネルなど、農地以外に転用したい
- 3 市街地の住民などが市民農園として使いたい希望があれば使ってもらおう
- 4 遊休化して荒らしても仕方がない
- 5 まだどうするか考えていない
- 6 その他(具体的に⇒ _____)

問6 問6～問8は、あなたの年齢が、60歳以上の場合だけお答えください。
あなたの農家の農業後継者の状況について、1つ選んでください。

- 1 後継者として決まった人または団体がある
- 2 今は集落の外へ出ている家族(※あなたのお子様など)が、将来はこの集落に戻って農業を継ぐ可能性がある
- 3 今は集落の外へ出ている家族が、将来はこの集落に戻って来る見込みだが、農業を継ぐ可能性は無い(または極めて低い)
- 4 現在、集落の外へ出ている家族が、将来ともこの集落に戻って来る見込みが無い(または極めて低い)

問7 問6で「1 後継者として決まった人または団体がある」を選ばれた方は、次の中で、どなたを農業後継者として考えていますか？(1つだけ選択)

- 1 あなたの家族
- 2 集落内の営農組織
- 3 集落内の個人農業者
- 4 集落外の営農組織
- 5 集落外の個人農業者
- 6 市内の農業法人
- 7 その他(具体的に⇒ _____)

問8 問6で「3」または「4」を選ばれた方におたずねします。

- 1 ぜひ後継者を探したい
- 2 できれば後継者を探したい
- 3 積極的に後継者を探すことまではするつもりはないが、見つければいいと思う
- 4 後継者を探すつもりはない

問9 あなたが栽培している農作物で、量が多いものを、下の表から選んで、多い順に5つあげてください。表になければ具体的作物名をご記入ください。

1
2
3
4
5

一般米、特別栽培米、酒米、飼料用米、麦、そば、大豆、小豆、さつまいも、じゃがいも、里芋、その他イモ類、枝豆、なす、万願寺とうがらし、きゅうり、かぼちゃ、大根、かぶ、キャベツ、レタス、白菜、ピーマン、アスパラガス、玉ねぎ、ねぎ、トマト、イチゴ、ほうれんそう、きのこ、花、養鶏、酪農、果樹、山菜、その他

問10 あなたは、今後どのような作物を栽培していきたいと考えていますか。
(複数回答可)

- 1 農業収入を増やすため、よく売れる作物、価格が低い作物
- 2 有機栽培や低農薬栽培など、より安全で安心して消費してもらえる作物
- 3 栽培技術が易しく、病害虫に強い、作りやすい作物
- 4 他の農家や地域で栽培していないような、珍しい希少価値のある作物
- 5 その他(具体的に⇒ _____)

問11 あなたが生産した農作物の現在の出荷・販売先などを教えてください。
また、今後(将来)はどんな出荷・販売先などを希望されますか。
当てはまる欄に、○を記入してください。(複数回答可)

	現在	今後(将来)
1 自家消費のみ		
2 近所・親戚・知人に配る		
3 農協を通じて出荷		
4 卸売市場へ出荷		
5 朝市や無人販売所、直売所で販売		
6 特定の取引先と契約し出荷		
7 食品加工場へ納入		
8 その他 具体的に⇒		

- ・質問はこれで終わりです。アンケートへのご協力ありがとうございました。
- ・ご記入いただいたこの回答用紙は、古封筒または「経営所得安定対策交付金申請書」用の封筒に入れて、6月30日までに農事組合の役員様にお渡しください。
- ・このアンケートについてのお問合せ先：

舞鶴市役所 産業振興部 農林課 農政係 電話66-1023